

令和5年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1102	基盤教育群	地域フィールドワーク	本科目は、全学1年生が対象となる必修科目であり、学外での活動を伴う点に特徴があることから、講義改善および講義準備は、前年度の10月（後期開始時）には開始している。学外での活動においては、フィールドの確保、とりわけ県内の自治体との連携が最大の課題であり、本年度は、4自治体（大崎市・塩竈市・亶理町・村田町・女川町）の協力を得ることができた。自治体とは、既に、自治体との事前事後の振り返りを実施し、次年度の受け入れについての相談を開始している。約450名となる学外での演習においては、到達目標の達成にくわえて、安全対策や学生の体調管理に万全の注意をはらっており、こうした点の改善も自治体とは議論している。 講義運営についても、この科目は、2年次以降のPBLの導入科目といえる役割を有していることから、主に、課題解決の手前にある課題の発見および解決策の検討を講義内で図っている。今年度は、独自に開発した教材（テキスト）を導入し、事前事後学習の強化を図っており、これまで積み重ねてきたフィールドワークの知見とあわせることで、講義改善に有効な結果となった。 この科目は、2017年度の大学改革にあわせてスタートし、昨年度の新カリ移行を踏まえて、7年目の実施となっている。8年目となる次年度においては、これまで改善してきた教材開発、フールド開拓を深化させていくとともに、今一度、学外フィールドワーク当日の安全対策や学生の行動把握などの面においても改善を図っていきたい。
1103	基盤教育群	コミュニティ・プランナー概論及び演習	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【自由記載：良かった点】（抜粋） ・グループでの活動を通して、後期のCP実践論に向けて準備や学習ができた点。 ・少人数だからこそグループワークの初歩的な訓練を積み重ねることができた。学生同士が密に関わる授業は少ないため、楽しんで学べる充実した時間だった。 ・グループワークが面白かった →コミュニティ・プランナープログラムにおける、地域での実践活動の前段階として、実際に地域社会で活動している方々の講話や、ワークショップ等による実践的な手法に関する講義を設定した。そこから得られた知識だけでなく、他者に関わり議論を交わしながら学ぶ経験をコミュニティ・プランナー開講科目をはじめとした今後の学習活動や実践に活かしていったほしい。
1106	基盤教育群	English Gateway I	1 クラス間によって課題内容、課題量ともに若干の差があった。→提出課題の内容と量については、クラス間に差が出ないよう情報を共有しなるべく統一したい。2 テストの時間が短い。→期末試験の時間をもう少し長めに取ることにしたい。
1107	基盤教育群	English Self-Expression I	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 各授業の内容や進め方を統一する必要があるので、改めて各担当教員に確認する。 授業中、少数の学生は英文を書く時間が短いと感じていたかもしれませんが、クラス全体のレベルに合わせて時間を決めていました。 英会話に関して学生は自信があまりありません。自信を持てるように指導していきます。また、文法などをあまり気にしなくても良いから多く話す、間違いは恥ずかしくないということをわかってもらえるようにしたいです。 授業ではペアワークが多く、公平さを考え、先生がペアをランダムに決めることとします。コミュニケーション授業ではペア作業が多いのは仕方がなく、知らない人と会話するのは嫌だと思うが、慣れるしかありません。
1108	基盤教育群	English for Academic Purposes	1 クラス間によって進度に若干の差があった。→進度に関しては、シラバス通りに進めるように、また、クラス間に差が出ないよう情報を共有しなるべく統一したい。2 内容がわからないことがあった。→長文の内容をきちんと深めることができるような授業に改善していきたい。
1109	基盤教育群	English Expedition	日常生活で活用できる内容を取り入れた実践的な教材を選ぶことで、学生に提供する教育の質を向上させ続けてきました。また、e-ラーニングやオンライン教材サポートなど、最新のテクノロジーを活用した適切な授業内容の開発にも、教師陣が協力して取り組んでいきます。 新カリキュラムではEnglish Expeditionが実施されるのは今回が初めてでした。学生の学習支援、特に英語を流暢に話す能力とプレゼンテーション能力の向上において、このコースの有効性を引き続き評価していきます。
1110	基盤教育群	中国語 I	・課題の提出方法は具体的な指示を出します ・学生の理解を深めるために授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです ・グループワークで各グループ班の参加状況を確認するようにします ・両クラスの学生人数のアンバランスを調整に工夫します ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めていろいろ工夫をし続けていきたいと思います ・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思います ・授業方法に更に工夫をしながら、学生の皆さんが楽しく中国語力を向上できるような環境整備を実施していきたい ・これからもわかりやすい指導を心がけていきたい。

令和5年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1111	基盤教育群	韓国語Ⅰ	言葉はその国の文化を代表するものと言っても過言ではないと言える。韓国語Ⅰは韓国語の読み・書きができるようにすることを目標にしている、そのために授業時に多くの韓国の言葉を学んでいる。その言葉を正しく理解できるためには関連する文化を理解しなければならない。そこで、授業時には言葉と言葉に関連する文化についての話がたくさん行われる。今回も言葉に関連して多くの韓国語の文化についての話や関連する映像などを用いて授業が行われた。それにより、韓国の文化についてより深く理解できたと思われる。しかし、本授業は、語学授業であるので、文化と言葉についてバランスよく行われて、偏らないように注意を払う。また、今回の問題点として、説明のスピードが早い、聞きづらいなどが取り上げられていたが、今後説明のスピードの調節と説明が明確に伝えられるように心がける。単語については、発音練習と会話に役に立つものを中心にして、単語の選別とその数などの調節を行い、学生たちがより効果的に韓国語を習得できるように改善していく。
1113	基盤教育群	憲法（食産）	【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・憲法をより身近に感じられたこと。 ⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。
1114	基盤教育群	国際関係論	・国際関係の裏側について考え、日々のニュースをより深く理解しようと考えられるようになった。 ・授業のポイントが明確で、レジュメも1講義ごとにテーマが決まっていたのがよかった。レジュメに書いてあることを噛み砕いて説明していたのが分かりやすかった。レジュメに書いていないけれど、関連する話をしていたのも理解の手助けになった。 ・とても面白い授業だった。今の世界の状況や課題など考えさせられた ⇒国際問題に関心を持ち、問題の本質を理解してもえるような授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。
1115	基盤教育群	社会と経済（食産）	「社会と経済」においては、単位を取るために学ぶのではなく、講義を通じて社会や経済に関心を持ったり、新聞等で報道されている中身を理解できるようになってほしい思っている。 来年度も、講義内容に関連する新聞記事を配布したり、現実の問題との関係性を説明したりと、教科書の枠を超えて、社会や経済の仕組みに興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。
1116	基盤教育群	社会と哲学	「オリジナリティがない」とのご批判を頂戴しましたが、この科目はいわゆる基礎教養科目ですから、あまりオリジナリティを出さずに授業を組み立てています（それでなくても、ついてこれない学生さんはいるようですし……）。もし、この授業にオリジナリティらしきものがあるとすれば、資料の選択や配列の仕方、あるいは解説の方法に多少のそれが認められるかもしれません。そもそも、私のようなつまらない人間のオリジナリティに触れたとしても、貴殿の人生に資するところは少ないように思われます。なお、それなりの期間、大学の教員をやっていると気づくことなのですが、この「オリジナリティ」という語は、授業準備に時間を割かない教員の言い訳として、あるいは反対に、そのような教員を揶揄するための隠語として使われることがあります。特に後者の意味において「オリジナリティがない」とのご批判は誉め言葉として受け取っておきます。
1117	基盤教育群	人口学概論	授業評価による自由記述を踏まえ、今後の授業改善として以下の点を上げたい 授業計画と内容 ・1つの講義について特定のテーマについての解説やデータの紹介を行ったが、情報は随時更新されるので、データをアップデートする必要がある。 ・講義で紹介したデータは基本的にインターネットで公開されているものであるため、ソースを提示することで、今後別の講義課題でも活用可能なようにする。そのためにはサイトの利用についてのチュートリアル作成も検討する。 ・海外のデータが少なく紹介しきれていなかったため、今後の検討課題としたい。 課題 ・ほぼ毎回課題の提出を求めた。課題は基本的にその時間の講義内容を反映させてきたが、履修者が多く採点に苦労したため、内容について検討したい。 説明 ・講義内容が人口という身近なものであったので、興味を持ってくれた学生が多かったものと思われる。今後なるべく興味のあるようなトピックを加えつつ説明を行いたいが、内容が散漫になっている事も否めないため、バランスを検討したい。 ・一方的に話をするだけでなく、双方向を意識した内容を検討する。
1119	基盤教育群	生命科学	授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。 【良かった点】（抜粋） プリントが配布されていてメモを取りやすかったこと。 授業後のディスカッションで自分にはない考えをしれたり深めたりすることができてよかった。 【改善した方がよい点】 ・話がずれて最後のほうに駆け足で終わらせることが多かったためそこを改善したほうがいいと思った。 →（改善策）話が脱線しないように授業を進めます。
1120	基盤教育群	環境学概論（食産）	全体的に理解度も高く、興味を持って受講していた。アンケートでは、すべての項目で平均値を上回っており良好であった。特に学生からは、動画が良かったとの意見があげられた。また不可は欠席によるものであった。

令和5年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1121	基盤教育群	地球と宇宙（食産）	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【よかった点の自由記載】（抜粋） ・説明が分かりやすくて理解しやすかった。 →引き続き、わかりやすい説明を追求したいと思います。 ・個人的な興味で受けたが楽しかった。 →興味関心を高める工夫を続けていきたいと思います。 ・授業資料が分かりやすかった。 →講義資料について、より読みやすくなるようにブラッシュアップを図りたいと思います。 【改善したほうがよい点】 ・特になし 【その他、意見、感想、要望など】 ・特になし
1122	基盤教育群	数学概論	■この授業に関して、良かった点 ・論理的に考える力が身に付く・授業の内容が順序立てられててすごい分かりやすかった。・難しい内容だが、三浦先生が色んな具体的を用いて説明してくれて分かりやすかった。いつでも質問いいよと言っていたのもよかった。・分かりやすかった・授業が分かりやすいです・教科書を無料で配布してくださったこと。・プリントを配るだけではなく実際に板書してくださるので頭に入ってきてやすい。・授業スピードが早いと感じたが、説明と演習を繰り返すので、サクサク進んでいた。逆に良いスピード感で学習できた。・高校では学べないような内容で、深く数学について考えられて楽しかった。 ■改善したほうがよい点 ・授業スピードがはやくて、置いてかれてる気持ちになったのももう少し丁寧に教えて欲しかった。・高校数学から一変するため進度を遅くし、演習を増やしてほしい。・先生が楽しいだけの授業で受ける側は置いてきぼりだったと感じた。・板書が多くて内容が頭に入っていない 練習問題を解く時間を授業内にもう少し増やしてほしい・説明が意味わからない。 テキストの解答がないのがすごく不便。もう少し詳しく説明して欲しい。・授業が私には分かりにくいのと、進むのが早くてついていけない。・テキストが見つづらい・難しすぎる・たまに例がわかりにくかったり、説明が早くてわからなかった。 ■その他、意見、感想、要望など ・先生が良いので概論の先を知りたい欲が生まれる・分かりやすく、楽しい授業だった。・文系脳には全くついていけなかった ■■対応：「良かった点」はこれまで指摘されてきた改善点への対応が順調であることを示している と考える。「改善点」には「良かった点」との同項目（スピード、具体例の提示など）について反対の意見が含まれ、個人差の域を出ない印象もある。したがって、好悪いずれの意見に対応するかは判日常生活の中での物理の焦点を当て、身の回りの現象についてその原理などを定性的に解説し、自分でも説明できるように講義を進めたが、おおむね好評であった。感染対策が緩和されたために、理解度の確認のためにアクティブラーニングを再開したが、今後とも継続していきたい。また、学生からの質問・ニーズがある項目について拡充を検討する。
1123	基盤教育群	物理概論	
1124	基盤教育群	化学概論	全体としては概ね計画通り授業展開を行うことができた。基本的に対面で授業を実施し、手書きの板書が主な方法となった。太白キャンパスでは、本年度より電子黒板を使用することが可能となり、大変に助かった。受講する学生にとっても手元で拡大などが可能となり、使い勝手の良いものであった。手書きによる実施のため、字が読みにくいなどの不具合もあったが、展開スピードについては、適度に保たれたようであった。わかりにくい内容については、繰り返し説明する、演習を通して定着を図るなどの工夫で対応した。なお、本年度受講者から、高校での化学の学習内容が変更され、これに伴って教科書が新しくなった。化学概論の内容も、これに伴って若干変更があった。 当該科目については、大学入学前の履修状況に学生間で差があるため、次年度は、基本的な部分を中心に、わかり易い内容で授業を展開する。さらに、授業の中でも演習問題に取り組む時間を設けるなど、参加学生が自らの意志によって、学習に取り組み仕組みを導入する。高校での学習経験がなく苦勞する者も散見されたが、場合によっては「再履修」も積極的に受け止め、繰り返し学習する中でしっかりとした基礎固めをしてもらいたい。
1125	基盤教育群	生物概論	この科目では、毎回確認テストを行います。確認テストは、初めは何回でも受けられますので、高校で生物を履修していない学生やたまたまその授業を休んだ学生でも、自分で復習ができるようになっています。復習をせずに試験だけを受けていると、後半に1回のみの試験になると、復習しながら毎回試験を受けている学生とそうでない学生の差が大きくなってしまいます。毎回復習をして理解したうえで確認テスト受けるようにしましょう。
1129	基盤教育群	音楽演習（食産）	概ね全ての項目で全授業の平均値を上回っているが、さらにわかりやすい授業を心がけ、受講生の興味、理解を高め、また目標への到達感を得られるように努めたい。 演奏実技を主とする授業であるが、理論的な部分や教材を工夫するなどして、事前事後学修で、音楽に対する理解を深め、また触れられるようにしていきたいと思います。

令和5年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1131	基盤教育群	日本の歴史と文化	○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では概ね肯定的に評価されているようなので、今後も大枠は維持していきます。 ○授業アンケートの自由記述では、「歴史の見方の変化」に関わる記述が見られ、「思考する歴史」への転換が図られているようです。授業の目標を達成する上で重要なことなので、今後も多様な解釈の紹介を充実させていきたいと思います。 ○毎回のアンケートに対するフィードバックが長いという意見があり、この結果授業の進度が遅れてしまったという反省もあります。他の履修者の理解の仕方や思考に触れることは大切だと思うので、講義の進捗とのバランスを取りながら、今後もフィードバックは継続したいと思います。
1132	基盤教育群	東北の歴史と文化	○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では概ね肯定的に評価されているようなので、今後も大枠は維持していきます。 ○授業アンケートの自由記述では、「歴史の見方の変化」に関わる記述が見られ、「思考する歴史」への転換が図られているようです。授業の目標を達成する上で重要なことなので、今後も多様な解釈の紹介を充実させていきたいと思います。 ○アンケートでは、講義名の地域設定（東北）に対し、扱われる地域範囲が仙台に偏っているという意見が寄せられています。講義前半に対する改善点だと受け止めます。授業の内容的にフィールドの設定は必須のため今後も仙台を扱っていきますが、「仙台で得た考え方や見方を、どのようにして東北の他地域に応用するか」について、これまで以上に充実させることで、改善を図りたいと思います。
1133	基盤教育群	人と宗教	受講者が多いので、教員主導の授業になることは致し方ありません。特に、宗教の場合には、誤解が生じないように配慮しなければなりませんのでアクティブラーニングを推奨することもしていませんし、プライベートな事柄に関わる面も多々ありますので授業内で皆さんの意見を聴取することもしておりません。その代わり、メールで質問を受け付けるようにしておりますし、レポートの論述部分は皆さんのオリジナリティが相当に試される問題になっているのではないのでしょうか。とまれ、授業では、基本的な知識の習得に努めてください（「思而不学則殆」）。なお、この授業に「オリジナリティがない」とのご批判を頂戴しましたが、その点に関しては「社会と哲学」の授業改善計画に私見を認めておきましたので、御照覧ください。
1134	基盤教育群	心理学	受講者が比較的多い授業のため、講義環境としてはあまり良くなかったと思います。 内容についてはかなり広範な領域の事象を扱っています。事象そのものは日常生活で見られるものですが、それに対して専門用語が出てくるので、なじみにくさを感じる学生もいたかもしれません。また予想していた「心理学」の内容とは違っていたと感じた学生もいたと思いますが、比較的オーソドックスな「心理学」の内容です。日常生活で見られる事象を扱っているので、日常生活と照らし合わせて考えてもらおうとわかりやすいと思います。
1135	基盤教育群	健康科学	自由記述の主なものは以下のとおりであった。 良かった点 ・心のことから身体のことまで幅広く学ぶことができてよかった。 改善したほうがよい点 ・テストの形式について先生ごとにもう少し詳しい説明が欲しかった。 ・資料が多すぎて重要な部分がどこかわかりにくかった。 その他、意見、感想、要望など ・分かりやすく、良い講義だった。 引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。事前・事後学修については、担当教員単位でより具体的な教示や声がけを行う。

令和5年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1136	基盤教育群	スポーツ実技	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。感染症や熱中症対策等のため制限される活動も多々ありましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼシラバス通り（初回ガイダンスでの説明通り）に進めることができました。また、『良かった点』として、 ＜スポーツに関連する身体運動機能について＞：「楽しく安全に運動をすることと、運動の知識を身に着けることができた」、「自分の技術向上に役立つような情報を色々学ぶことができた」、「私たちの行動をしっかりと見てアドバイスなどをしてくれるので楽しく体を動かすことができる」等 ＜授業の進め方について＞：「能力に関係なく、自分の体調に合わせて授業を行ってくれた」、「1人1人の状態を考えたエクササイズ」、「理論から体を動かすことを学べた」、「運動が苦手な人でも評価されるような仕組みだった」等 ＜交友関係について＞：「仲間と楽しく体を動かせたとし、新しい友達もできるような授業内容だったので交友関係の幅も広がった」、「学群を超えて友達ができた」等 ＜今後の健康づくりについて＞：「解説がわかりやすく、日常生活の場面でも活かせる知識を得られた」、「運動をする機会が増やせて、座学で教わったことも踏まえて、健康を保つために改めて生活環境を見つめなおすいい機会になった」等 といった多数の意見をいただきました。一方、『改善すべき点』として、●体調を配慮してもらったがもっと動きたかった、●マイクの声が聞き取れない場面が多くあった、●専門用語がわからないことがあった、といった意見がありました。まず、適度な運動強度、運動量は個人差が大きいのので、各自にとって安全で適した運動（強度、量）となるよう、相対的運動強度の調整法やルールの工夫等に関する情報提供、現場での指示を充実強化させたいと考えています。体育館の音響については、特にゲーム中に聞き取りにくくなりますので、重要事項は一旦ゲームを止めていましたが、次年度以降は説明の内容に合わせてより伝わりやすい方法を検討したいと思います。専門用語については、部活経験者と未経験者で使い分けるようにしていますが、両者に的確に指示が伝わるよう工夫していきたい
1137	基盤教育群	体を動かす楽しみ（食産）	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 感染症対策＋熱中症対策等のため、一部制限される活動もありましたが、授業評価アンケートでは『良かった点』として、●この運動はどこにきくなど具体的に言っていて分かりやすかった、●学生の体調を一番に考えてくれた、●身体について詳しく学べた、●学生の質問を歓迎していて質問しやすい点、●様々な人とチームを組む機会があった、といった意見をいただきました。 一方、『改善すべき点』として「レスポンスシートが多すぎる」という意見が1件ありました。レスポンスシートについては、シラバスに記載しているように、各自の体調、体力、運動能力等に最適な運動強度や方法を自ら考え、調整・加減する上で、また本科目の予習・復習も兼ねていることから、評価上も重要な位置づけになっています（ただ、文字数制限などは設けていません）。次年度以降はこれらのことをご理解いただけるよう、初回ガイダンス等でもより丁寧に説明したいと考えています。
1138	基盤教育群	スポーツ科学	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 受講したみなさんのレスポンスシートの内容、まとめレポート、さらに授業評価結果（「授業外の学習時間」以外は全学平均を上回っていた）等から、シラバスの到達目標等は概ね達成できたかと思われ、今後の健康づくりにも活かしていただければ担当者としても嬉しいです。一方、『その他、意見、感想、要望など』として「話の要点がわかりにくかった」という意見がありました。初回ガイダンス等でも説明していますが、本学には文系、理系の方がいますので、レスポンスシートの内容等に基づき、受講生の得意・苦手な分野も考慮しながら（シラバスの範囲で）毎回の内容を検討し、必要に応じて個別対応（補習的な内容、応用的な内容、リモート指導含む）を行っています。それでも、年度（文系、理系のバランス）によって専門的な内容になることもありますので、次年度以降は授業以外でサポートできる体制も強化していきたいと考えています。
1140	基盤教育群	食と社会	期末のレポートや授業評価のアンケート結果を見ると、授業の内容や進め方の大筋については今年度どおりで問題はないと考えてる。また、学生どうしでのディスカッションやグループワークは授業の重要な要素と位置付けており、またアンケート結果でも好評であるので、来年度も十分に時間を取りながら進めていく。 細かなところでは、アンケートの中で、意見を述べる学生に偏りがないようにすることや、学生の意見に対する私の意見をもっと聞きたいという趣旨の意見があったので、このような点を中心に授業の進め方については改善していく。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2101	保健医療福祉行政論	3年生の前期科目ですが、学習内容が保健医療福祉行政とこれまで、あまり学習の積み重ねがない内容であることから、皆さんにとっては、難易度が高い科目であったと思います。制度や社会の仕組みについては、取り決めがあるため、覚えなければ理解できないことがほとんどです。また、社会の仕組みは、複雑なものも少なくなく、一般に公表されている国や公的機関から配信されている資料等も含めて繰り返し、何度も見返しながら、自分が理解し、納得するまで学習が必要になります。今後は、より参考書の紹介や、大学の図書館にも関連図書が置かれるように努めて行きたいと思います。保健師教育課程の必須科目ですので、自己学習や、授業中の質問等、皆さんの積極的な学習も期待したいと思います。
2102	リハビリテーション学	すべての項目について全学平均値よりも高く、臨地のゲスト講師の講義を多く取り入れた実践的な学習が積み重なり、学生の皆さんの満足度も学習到達度も高かったと考えている。課題への取組成果も非常に高かったと評価している。 少人数授業であり、担当教員、ゲスト講師と学生一人一人の距離感が近く、意見交換できる環境にあったことから、「指導が厚く、学びを深めやすかった」と評価を得られている。臨地実習においても非常に役に立つ内容で、臨地での実践家であるゲスト講師を贅沢にお呼びしている。次年度から新カリキュラムとなり、「リハビリテーション看護論」とより看護に特化した内容に改編することから、履修者の増加への努力をしていきたいと考える。
2103	看護学研究法	学生の皆さんにとっては、研究に関する授業は初めてであり、かつ、基礎となる授業は1,2年次のものであることから、難易度が高い印象が強く、かつ、今年度から、卒業研究を早期に開始できるために、集中開講（週4時間）でスケジュールを組んだことで、事前・事後課題の負担感も大きかった。そのため、総合評価の結果は、難易度・進度の評価が特に低い評価となったが、前年度よりは全体的に評価が上がっていた。皆さんの回答の分布やご意見を確認すると、難易度が高く到達度も低いという一方で、授業内容は分かりやすい、卒業研究に役に立ち、研究の面白さを感じたという評価もあり、みなさんの評価・ご意見のばらつきも非常に大きかった。看護における研究は、多分野で専門的であることから、学生自身の得意・不得意さによる理解の差も大きい授業内容であることは承知している。そのため、担当教員の専門性を活かした小グループ形式をとり、必ず研究論文などの具体例を提示し、レスポンスカードで学生の理解度や、意見・感想をふまえた授業改善や補足は適宜行っている。また、具体的な方法論は卒業研究を通して学ぶこともお伝えしている。授業到達目標として下げることとはできない科目であるが、次年度は集中開講の時間割を工夫し、皆さんにできるだけ分かりやすい授業内容や進め方を工夫したい。
2104	国際比較看護論	学生自身の授業目標到達度が、全学平均よりも低い結果でしたので、授業内容の見直しを行います。
2105	救急・災害看護論	本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると、全項目で同程度または上回る結果となった。「授業マナー遵守への配慮」のみが同程度の得点を示していた。今年度は事後課題の提示方法をMicrosoft FormsのURL貼付することで求めたが、学生の自由記述の情報から提出忘れがあったことがわかった。そのため、来年度は、事後課題の提出方法を課題機能に設定して提出忘れを防ぎたいと考えている。また、例年と同様に、臨床現場での実践家である救急看護認定看護師を東北大学病院や置賜総合病院からゲスト講師として招聘し、救急看護の専門性を教授することを目指した。自由記述の内容を確認すると、外部ゲスト講師の講義内容が好評であり、4年次の国家試験を控えた学生たちにとって適切な難易度で臨床現場の実際に即した救急看護・救急医療を学ぶことができたと考えられる。例年と同様に、今年度の心肺蘇生演習はシミュレータ人形を用いて、心臓圧迫・人工呼吸の程度を可視化させながら演習を行った。また、トリアージ演習を実際のトリアージシートを用いて行った。アンケート結果からも演習での取り組みが効果的であったことが伺える。 一方で、その他の意見として、「救急看護を目指している人にももっと受けてもらえるよう周知した方が良い」と挙げられた。災害看護だけではなく、災害看護に通ずる基本的な知識として、救急医療や救急看護の内容を教授しているが、その内容が充実してきた成果だと捉えた。来年度も継続していきたいと考えている。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2106	母性看護援助論Ⅱ	母性看護援助論Ⅱは、分娩期・産褥期・新生児期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。この科目では、「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「知識や技術の習得・知的関心の喚起」において全授業の平均値が上回っていました。この科目では特に「知識・技術」のDPに重きを置いていますので、そのねらい通りに皆さんが学ぶことができたことを大変嬉しく思っています。一方で、「授業計画のわかりやすさ」「目標到達できる内容」「授業マナー遵守への配慮」「授業外の学習時間（hr）」が全授業の平均値よりも下回っていました。 良かった点として「授業がわかりやすく、復習しやすかった」などのご意見を頂いたことから、座学での講義内容は効果的な学びにつながっていたとことがうかがえました。また、後半4回の演習（看護過程・妊婦の看護・褥婦の看護・新生児の看護）については、4年生の先輩方がサポーターとして加わったことにより「演習が実践的であった」「先輩が演習に来ていただけるおかげで質問がしやすかった」など肯定的な意見を頂きました。一方、演習内容の事前の提示や指導する側の態度などについて、改善を求める具体的なご意見を頂きました。不快な思いをされた方には心よりお詫び申し上げます。 今後は授業時間外にも取り組める課題を検討するとともに、特に演習の進め方について、より学生の皆さんが理解しやすく目標が達成できるように工夫して授業展開をしていきたいと思ひます。また、授業のマナーなどに関して頂いた意見を踏まえて、より良い学習環境を提供できるよう努めていきたいと思ひます。
2107	小児看護援助論Ⅱ	講義資料、講義内容について、これからも内容の検討を重ね、学生のみなさんが小児看護学への興味関心を高め、知識の獲得につながるような工夫をしていきたいと考えています。 技術演習（OSCE）について、演習の流れや内容について検討を重ね、小児の看護技術の獲得につながるような内容にしていきたいと考えています。
2108	成人看護援助論Ⅱ	教材については、「どの講義もわかりやすく、実習でもすぐ活用できそうな講義資料だった。」等との意見があった。今後も予習・復習等の自己学習や領域別実習等で活用しやすい資料を作成し、周術期の看護について具体的にイメージができるよう、様々な教材を活用し授業の展開を行う。「講義資料の文字が少し小さい」「早口で聞き取れないことがあった」等の意見があったため、構図や文字の大きさの工夫、時間配分を吟味して講義を展開することとする。 講義内容については、「内容がかなり難しかった。急性期の予備知識がないため一から詳しく解説してほしい。」等の意見があった。疾病論で侵襲や創傷治癒過程等、成人看護援助論Ⅰで急性期看護について学習しているが、科目との関連性を踏まえた復習事項について詳しく提示し、本科目との関連性を認識できるように教授する。 事例検討課題における「アセスメントから問題の明確化」に関する講義では、その後のグループワークを見据えてグループ毎の着席の指示し、学生からの意見を募りながら展開したが、「グループで話し合う時間がなく、意見を述べるにあたりメンバー間でサポートすることができなかった」等の意見があった。問題の明確化までは個人ワークであり、グループの総意ではなく個人で考えた意見の提示を求めたが、授業の学習課題・展開方法が適切に伝わるよう、説明内容を吟味し資料等を修正することとする。一方、「一人ひとりにフィードバックがあり、自分に足りないアセスメントの視点が分った」「自分で考える過程を踏んだからこそ力がついた」等の意見もあり、周手術期看護の思考過程が学習できるよう、段階的な教授や個別的なフィードバックといった学習支援を継続する。
2109	成人看護援助論Ⅲ	療養体験演習や講義を通して、本科目で重視している対象理解について学べたこと、後期に控えている臨地実習を意識し、教科書と実践をつなぐよう意図した授業内容に対して、肯定的な評価をいただけた。レスポンスカードを通して学生から寄せられる質問や学びに対する返信、講義が双方向になるよう工夫した点についても好意的な意見をいただいた。 要改善点として、内容が豊富であった分まとめが欲しかったことや、教員による講義資料の差、復習の際に講義資料のわかりにくさに気づいたという意見があった。成人看護学の領域は各論の幅が広く、特に慢性期看護では、慢性病のさまざまな病いの経過における看護を教授している。そのため、授業時間に対して授業内容が多くなりがちであり、授業中に要点は示しているものの、その要点が多いために、学生に難しいと感じさせたものと考えられる。また、試験内容に関して、講義資料で強調されていなかった部分が出題されたことに対する不満をもった学生もいたようだが、本科目は期末試験での講義資料の持ち込みを許可しており、強調した重要点そのもの（項目）ではなく、重要点の内容を問うたものであり、慢性病者に必要な看護を実践するために必要な知識を問うというシラバスの内容に相違ない。学生には項目の暗記に留まらない学習を期待したく、授業オリエンテーションや試験前の授業で周知していく。 本科目が学生にとって難しいという評価ではあるものの、本科目は成人看護学の対象論および援助論を教授する科目であり、本科目だけで完結せず、本科目での学びを臨地実習等で受持ち患者の理解や看護実践に活用し、つなげることで学びが深まり、学生自身のものになっていくものと考えている。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2110	老年看護援助論Ⅱ	授業評価の意見として最も多かったのが、ワークで使用するシートがExcelで使いにくかったという意見でした。昨年度はワークシートをExcelとWordから選択してもらい使用していましたが、今年度はExcelに慣れてもらうためExcelのみにしていました。Excelの使用を推奨しますが、使用方法の困難さで学習時間に影響が出ており改善を検討していきます。 授業の構成が、講義、個人ワーク、グループワーク、全体共有の展開で理解が深められたという意見がある一方で、内容を詰め込みすぎてワークの時間が短すぎる、何をすれば良いのか、何を学べば良いのか分からなかったという意見もありました。「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」の評価が低く、毎回の授業目標やワークで行うことを提示してはいましたが明確さと内容を深めるだけの時間設定に課題がありました。来年度は講義中心で行うことも検討していますが、この授業構成で展開する場合は、目標やワークで行うことを適宜明確に伝えながら進めていきます。毎回の授業後のレスポンスシートで学生の反応を確認し、質問や補足説明が必要な内容、よく理解できていることなどを、翌週の授業冒頭でフィードバックしていましたが、その時間が長くなりがちであったため、フィードバック方法について検討します。
2111	精神看護援助論Ⅱ	授業へのご意見をありがとうございました。 授業の進め方、コンテンツに関する改善意見はありませんでしたので、今後もこのような内容で組み立てていきたいと思います。 【よかった点についての自由記載】（抜粋） ・前半に事例検討があったのがとてもよかった。 ・当事者の方々にお話をきけたこと。 ・映像や資料が多く、精神看護について具体的に想像しやすかったです ・コラージュ療法が楽しかった。 ⇒ご意見、ありがとうございました。引き続き、来年度も学びを深められるように講義を組み立てていきたいと思います。
2112	地域看護援助論	・「実習に行く地域について理解を深めることができたこと。他のグループの地域診断も知れたこと。」「地域診断でグループワークの時間が授業中で設けられていたこと」等につきましては、地域看護学実習に向けて地域を知ることの大切について気づく機会となりうれしく思います。担当する地域により資料の多少がありますが、その点は次年度以降も配慮していきたいと思います。 ・「テストに出るって言われたところが出なかったこと」につきましては、国家試験の範囲であることも考慮して、試験に出す範囲の候補としてお伝えしています。その点をご理解いただければと思います。 ・「地域診断では仙台市の区ごとの情報収集が難しいので、評価に配慮してほしい。」につきましては、その点を配慮しての成績となっておりますので、ご安心ください。次年度以降もそのように配慮したいと思います。 ・「保健師免許を取るつもりがないのにこの講義を受けなければいけない理由がよくわからない」につきましては、本科目は看護師国家試験の試験範囲となっております。看護師国家試験出題基準をご確認いただければと思います。 ・「実習オリエンテーションの時間を確保して欲しい」につきましては、地域看護学実習ですので、本科目の中でオリエンテーションをすることにはなっておりません。しかしながら、次年度以降どの時間で実施するかは検討していきたいと思います。 ・「地域看護学実習の配置のアンケートをとったのであれば、もう少し配慮が欲しかったです。家と実習地が真逆な人が多かったです。」につきましては、地域看護学実習についてのことになります。また、このアンケートは希望をとるためのアンケートではなく、必ず配慮が必要なこと、実習地に行けない学生がでないことを確認するためのものになります。「居住地と近い場所」に実習地が集中しているわけでもございませんので、その点もご理解いただければと思います。
2113	看護マネジメントⅠ	本科目では、看護管理の基本的原則や理論を押さえつつ、履修生にとって「管理」という概念や機能をより身近なものとして捉えられるような内容構成や配置にしている。 そのため、特定の教科書を指定せず、授業資料で十分な理解ができるよう工夫している。 また、後期の領域実習の準備にもつながらる内容を多く取り入れるようにしている。 授業評価のコメントでも、その点は履修生に確実に伝わっており、学習効果が得られていると評価する。 一方で、設問7「知識や技術、理論の習得に役立ったり、知的関心が喚起された」かの相対値が低く、事後課題のボリュームや提出期限、難易度についての意見が改善点として挙げられていることから、授業内容を難しいと感じた学生が一定数いた可能性がある。授業内容や事前・事後課題の内容等について、領域内でさらに検討していきたい。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2114	看護マネジメントⅡ	本科目は、看護学群の最終学年として、今後の自分の専門職としてのあり様にどのように向き合うべきかを考え、その考えを言語化していくことに主眼を置いている科目である。 評価も到達目標に対応したレポート課題と毎回の授業内容に関する各自の思考を表現することによるものにしており、特に毎回のレスポンスの共有は、学生の思考の拡張や看護観の形成に役立ったと考える。 改善への意見として授業進度に関するものがあった。4年生は総合実習期間の授業を代替することが難しいことから、実質的な授業は13回とならざるを得ない状況である。3年次の「看護マネジメントⅠ」の授業内容との差別化とも併せて領域内で検討していきたい。
2115	在宅看護援助論Ⅱ	在宅看護援助論Ⅱでは、在宅看護援助論Ⅰでの基礎となる学習を踏まえて、在宅での看護援助について皆さん自身で考えられることを目指した学習内容となっています。今年度は、福祉用具に加え、ここ数年、コロナ禍で、実施できなかった在宅人工呼吸器等の機器を実際に見て学ぶ演習を行うことができました。関心を持って学ぶことができており、今後も看護援助に関わる学習の理解度が高められるよう、授業の展開方法を工夫していきたいと思います。 テストやレスポンスの記載時間が短かったとの意見がありました。想定以上に記載に時間を要することがわかりましたので、今後、検討したいと思います。在宅看護の学習では、新たな用語を覚えたり、制度に関わる内容も多く、理解の難しさを感じている学生の皆さんも少なくないと思います。適切な用語を正しく用いて、表現できる力も身に付けられるよう、これからも小テストやワークシート、レスポンス等による学習方法を活用していきたいと思います。
2116	緩和ケア論	授業評価の意見で、「日本や海外の緩和ケアの動画は、当事者の苦痛の理解や看護の視点を深めるのに役立った」「外部講師の方の講義を受けることができたことで、実際の緩和ケアについて理解が深まった」「緩和ケアに内容が具体的にわかり魅力を感じた」などがありました。4年生だからこそ、これまでの学習や実習経験を統合して、臨床をイメージできたと思います。また、これまでの学習範囲にとどまらず、海外の状況（WHOのwebページにある動画）にも、自己の関心を広げることができたと思います。1年からの学修を統合する授業になったことを嬉しく、履修生の皆さんの成長を頼もしく感じました。 これまでの授業では、各自が考えることを重視し、学生個々に教員からフィードバックをあまりしてきていませんでした。しかし、個々の学習を深め、個々の関心に合わせて視野をさらに広げられるように、学生個別へのフィードバックの方法も検討したいと思います。
2117	公衆衛生看護援助論	この科目は保健師国家試験受験資格を得るための必須科目であり、また、今後の公衆衛生看護関連科目での学習の基礎となる科目でもある。そのため3-4回の授業毎に試験を行っているが、自由記述には、試験を3回に分けて行ったことで期末テストの負担が減り、少しずつ深く学べた、要点がわかりやすく、資料が分かりやすいという記述もあった。公衆衛生看護に関連する知識は日々更新される情報が多いことから、今後も常に最新の情報をわかりやすく伝えられるように努めていきたい。 テスト結果を知るためにメール連絡したが返信がなかったという記述があった。多くの学生の問い合わせがあるために教員のチェック漏れが起こる可能性もあり、返信がない場合は、お手数ですが、再度連絡をいただきたい。Teamsのチャットで連絡するなど、方法を変えていただくと、なお確実です。
2118	公衆衛生看護活動論Ⅰ	・授業評価へのアンケート、ご協力ありがとうございました。 ・自由記載やご意見はありませんでした。 ・また、受講した学生からの評価も、各項目とも全授業の平均を上回りました。しかし、残念ながら受講した全学生が「授業目標を到達した」と回答するには至りませんでした。今後も受講生との授業前後のコミュニケーション等を通し理解度や進捗等を確認しながら、引き続き本科目の到達目標の達成に向けて授業内容の更なる改善に努めます。
2119	公衆衛生看護活動論Ⅱ	授業評価ありがとうございます。今年度の授業について満足度の高い回答をいただきましたので、次年度も今年度の良かったところを継続していきたいと思います。
2120	公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	・授業評価へのアンケート、ご協力ありがとうございました。 ・自由記載やご意見はありませんでした。 ・また、受講した学生からの評価も、各項目とも、全授業の平均を上回りました。しかし、残念ながら受講した全学生が「授業目標を到達した」「知識や技術を習得した」と回答するには至りませんでした。今後も受講生との授業前後のコミュニケーション等を通し、演習内容への理解度や疑問に感じた点を確認し繰り返し要点を確認するなどして、引き続き、本科目の到達目標の達成に向けて授業内容の更なる改善に努めます。
2121	公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	授業評価ありがとうございます。今年度の授業について満足度の高い回答をいただきましたので、次年度も今年度の良かったところを継続していきたいと思います。
2122	健康相談活動	・本科目と関連科目（学校保健論・養護概説・養護実習など）で扱う内容を整理し、学生にも提示する。
2123	教職論	アンケート結果からは、ループリックの内容を精査したことで、到達目標が明示化されたことが確認された。また教材を精査したことで、昨年度よりも授業の理解度や知的好奇心の喚起を図ることができた。昨年度から事前学習の時間が下がっているため、次年度からは小テスト形式の事前学習を設定することも視野に入れて検討を進める。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2124	教育の方法	最終学年の教職科目ということで、これまで教職科目で学んできたことの総まとめ的な意味の科目として位置づけられます。 教職課程の再課程認定に伴う「教職コアカリキュラム」に対応した内容になっていますが、多岐にわたる内容になっていたと思います。 変わりつつある学校現場の様子や学校現場の抱える問題が伝わるような授業内容になるように考えています。
2125	道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	アンケート結果からは、昨年度までと比べて、授業への知的関心が喚起されたと答えた学生が多く見られたことがわかる。要因の一つとしては、現職経験のある非常勤講師、現職教諭（ゲスト講師）による講義および理論研究をベースにした非常勤講師（大学教員）の講義、両者を総合する特任教授の講義と、授業の内容構成上のバランスが良かったことがあげられる。次年度以降もこの方向性を継続していきたい。
2126	人間発達学	自由記述の主なものは以下のとおりです。 良かった点 ・リラックスして受講することができた。 ・細かく休憩をはさんだことで最後まで集中して授業を受けることができた。疲れずらい。 ・資料動画や音楽、実際の映像を使ってくれて興味を持ちやすかった。楽しく理解することができた。分かりやすかった。 ・具体例を交えることで分かりやすかった。 ・興味をそそられる内容の授業だった。 ・資料や説明が丁寧でいろんな配慮がされていて理解しやすかったこと。 ・slideで他の友達の考えや意見を共有することができる点。 ・人間とはという大きなテーマに突き当たり、考え抜く、悩みぬく力を得ることができた。 改善したほうがよい点 ・特になし。 引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。
2127	医療倫理学	答えがすぐには得られない、いのちの問題について、さまざまな視点から考え、悩み続け、結論を急ぐことなく、悩んだプロセスをわかりやすく文書やイラスト等で表現するための時間、悩み方と視える化の基礎をはぐくむのが医療倫理学です。受講のみなさまが、愉しく朗らかに取り組めるよう、最新の資料、特にインパクトのある映像資料を工夫します。遺伝学的な検査に基づく画期的治療が次々と実用化されている状況を踏まえ、遺伝学的検査・遺伝子治療に関する医療倫理の最前線について学び、考えを深め、悩み、自分なりの思考プロセスをわかりやすく表現する時間をより多く取りたいと考えています。たとえ、医療・ケア対象となられるかたに重篤な疾患や障害があっても、日々の愉しみをできるだけ永く楽しみ続けていただけるよう、まず、自分自身を癒す営みが、さまざまな人びと、事物とのかかわりによって成り立っていることを再発見し、自らの死生観を深める体験を味わっていただ期待と思います。やがて医療・ケアのプロフェッショナルとして、他のプロフェッショナルと手を携え、愉しく支援を続けられるよう、たっぷり悩み、たっぷり笑い、たっぷり表現していただきますので、どうぞよろしく願います。
2128	形態機能学Ⅰ	・直接質問できるような時間、場所が欲しい。 回答：出席登録する時間帯に質問あれば質問して構わないことは以前に説明しています。講義後でもメールで研究室に訪ねても質問には対応します。どんどん質問してください。 ・スライドや話の内容がとてもわかりやすかった。 ・体の中の仕組みや構造について、図が多くわかりやすく学べた。 ・レジュメの図や表が分かりやすかった ・講義資料がもう少し分かりやすいものだったらよかった。 ・図が小さくて授業中では確認しきれない ・一枚のスライドにぎゅうぎゅうな時があって、見て分かりづらい。 回答：複数の情報が1つにまとめられた図やスライドは、どれ1つとして無視していい事柄はなく、複数の情報を一体化・俯瞰して学ばなければならないものです。バラして断片的に学習すべきものではありません。ただ単に”見づらいだけの図”はその都度指摘してくだされば対応できます。また、電子ファイル(PDF)で確認できます。拡大することもできます。小さい字などでも読めることは確認しています。 ・小テストが毎回あるから知識を定期的に身につけることができた。 ・小テストの答えや説明を追加してほしいです。 回答：正解は公表しません。講義中に説明していますが、解らなければ私や友達に質問したり議論しながら主体的に学習し正解に辿り着く論理的思考を身につけて下さい。ほとんどの学生は小テストの6割以上を正解していますから盛んに友達と議論しても正解に辿り着くはずの問題しか出題していません。また以前、正解を公開後に似た応用問題を再出題しても、ただ正解を暗記しただけで論理的に
2129	形態機能学Ⅱ	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っています。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2130	社会福祉学	看護学と社会福祉学の対象や実践対象には明確な差異があるが、他方で共通するものも少なからずある。その点をより明確に学生に講義するために、歴史・政策と方法技術、分野領域の3つの柱で授業展開している。特に、現在の多職種連携の実践の場において、看護学と社会福祉学の学びがより組織としての強みや組織的対応を検討させ創出させる強みにもなる点を学生に伝えていきたいと考えている。そのため、事例検討とまではいかないまでも授業時に事例提示を進めることで、医療職や対人職を目指す学生が社会福祉学を学ぶ意味をより見出すことが出来るように、授業展開していく。特に、学生からの質問や疑問については、授業時に口頭で解答していくことを継続して取り組みたい。社会福祉の必要性については、迂遠的ではあるものの社会福祉の理念や歴史的実践、さらには政策変化を取り上げながら、いかに医療領域と融合・分離しながらも専門化し、また関連し協働関係にあるのかについて学生自身がより興味や関心がもて自ら学修者として主体的な学びができるように授業を準備していきたい。大部分の履修学生は、授業の後半に差し掛かるところで、事例提示や法制度の講義を通して初めて社会福祉の歴史的福祉実践や基本的用語・事項が知識としても繋がるようである。そのため、歴史や政策、実践をより関連付けながらの講義展開を検討したいと考えている。
2131	学校保健論	開講時期である2年前期は、学生が教職に関する知識・スキルをほぼ学んでいない状況である。学生のレディネスにも配慮し、授業の難易度・進度、授業外学習などを見直す必要があると考えている。
2132	病態学	・再試験の締め切りの連絡は学生の単位取得に関わる大事な情報であるため正しく伝えてほしいです。 回答：ケアレスミスですみません。気をつけます。 ・講義が分かりにくい、資料がカラフルすぎてどこが重要なかわからない、ゴチャゴチャしすぎている ・資料の文字数が多くて分かりにくかったです。もう少しメカニズムがわかりやくしていただけるとありがたいです。 回答：資料の1枚あたりの情報が多ければ、資料の枚数がかなり多くなってしまいますが、小出しに情報を出していき最後に小出し情報の合体版を提示する方法も考えます。できるだけ1枚にまとまった説明にしているのは、"なぜこの病気が発症するのか" "何と何が比較検討されるべきなのか"を"説明できる"ために1つにまとまっているからです。カラフルになっている場合は、色の違うその全てが重要であるし、どう違うかなど考える必要があるということです。小出しの情報だけでは断片的になり"なぜこの病気が発症するのか"といった説明はできません。論理的な1つ1つつながったまとまった説明ができなければなりません。 また分からない場合質問して欲しいですが、残念ながら質問はほとんどありませんでした。具体的な（抽象的ではなく）質問や希望をしていただければ、可能な場合具体的な改善にもつながります。 ・授業資料に載ってない部分がテストに出ていた。 回答：かりに授業資料に載ってない部分があったとしても、正解には辿り着ける問題にはなっています。このようなケースは決して珍しくなく、さまざまな分野の国家試験等でも選択肢を検討すれば難しい選択肢があったとしても解答可能になっています。わからない選択肢があるかどうか、問題の
2133	疾病論Ⅰ	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っています。
2134	疾病論Ⅱ	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っています。
2135	看護情報学Ⅰ	学生からの意見を踏まえて以下の改善を考えたい。 ・看護職として活動するに当たり、臨床に関することのみを学修しようとする学生もいる中で、本講義は看護職としてのキャリアアップにおいて重要なスキルと知識であることを分かってもらえるような仕組みを導入する必要がある。 ・講義内容を精査し、要点を踏まえて重要である部分を強調するなど教授法を工夫する。 ・演習には必ず課題を出しているがその負担感を軽減するべく、スケジュール管理を検討する。
2136	看護学原論	今年度は、動画教材を取り入れ、具体的に看護に興味を持てるように内容を配慮した。自由記載の内容から、概ねこちらが期待する成果を達成できたと思われるので、次年度以降も積極的に取り入れていきたい。講義内に休憩を設けてほしいという要望が複数みられたので、間にミニワークを入れるなどして集中力が維持できるような展開を検討したい。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2137	ライフステージ看護学概論Ⅱ	ライフステージ看護学概論Ⅱは、様々なライフステージにおけるリプロダクション機能と精神機能の課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが関心をもって当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「授業計画のわかりやすさ」「教材と説明の適切さ」「授業マナー遵守への配慮」「学生自身の授業目標到達度」は、調査対象全科目に比較して高い相対値が得られました。皆さんが授業計画に則って教材や説明内容を手がかりに授業に集中して理解を深め、自分自身の目標到達度を高く評価できたことを嬉しく思います。そのことは、自由記載欄の「楽しかったです。毎週楽しみでした。」というコメントからもうかがえます。 一方で、「授業外の学習時間」は、昨年度より0.3時間ほど延びたものの、調査対象全科目の平均時間に比べて40%ほど低かったです。皆さんが授業外にも自己課題に取り組めるよう、授業設計を工夫して展開していきたいと思います。また、自由記載欄からは、授業中に退出しても良いと言われたものの実際には退出しにくいことにストレスを感じた学生がいたことがうかがえました。貴重なご意見をありがとうございます。今後はこの点を踏まえ、より良い学習環境を提供できるよう検討してまいります。
2138	地域看護学概論	新カリキュラムでの「地域看護」と「在宅看護」の学修の強化を意識し、授業を展開しました。地域フィールドワーク等の1年生からの学習を関連付けて、地域の理解や、地域生活者を捉え、多様な場で、多様な看護が行われていることを学習することを目指しています。様々なことの概念的理解が基盤として必要になるため、学習の到達目標への到達に向けては、講義形式での受け身の学習より、各自で調べて、学生同士で、捉えたことを話し合いながら理解を深めていくことが、より必要であると考えています。グループワークでは、良い学びが得られていたと思いますので、次年度以降、さらに工夫をしながら、地域・在宅看護につながる地域看護学概論の学びとなるように、構成していきたいと思います。 また、今年度は、講義初回時の希望確認により、講義資料は印刷して配布しましたが、授業評価に電子ファイルのほうが学習しやすいとの記載がありましたので、次年度は、講義資料も含めて、WebClassを活用しながら学習できる方法を考えたいと思います。 授業開時間5分以降にWebClassに登録すると「遅刻」と表示される設定にしていたことについては、遅刻をしないように行動することを習慣として欲しいとの期待もあります。社会では、集合時間に遅れた場合は遅刻となるのが常識です。チームでの活動を基本とする看護職を目指している皆さんですので、遅刻に対する意識を高めましょう。
2139	看護技術各論Ⅱ	・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。 ・「資料が多すぎて大事なことがわからない」と「ポイントが整理されていてわかりやすかった」というコメントがありました。テキストをベースとして資料を作成しているため、資料には確実に理解してほしい内容が整理されています。その中から何が大事になるかは学習者である学生が自ら考えることが必要だと考えています。教員から提示されるのを待つのではなく、自らどこが大切かを考えながら受講することを期待しています。 ・今後も学生が主体的に取り組むことができるような授業運営を行っていききたいと思います。
2140	看護技術各論Ⅲ	本科目の授業評価は、回答するすべての項目において全授業平均より上回った結果であり、全体を通して良好な評価だったと考える。別の科目への返答に「小テスト」に関するコメントがあったが、本科目での「小テスト」は単元ごとに要点が理解できているか確認することを目的とした取り組みであった。昨年度と同様に「授業の単元ごとにテストがあって復習しやすかった」という良好な反応があったため、次年度も継続していく予定である。一方で、「答え合わせをしてほしい」「資料が多すぎて大事なところがわからない」という回答も得られた。限られた時間の中で、予め大事なところだけを把握したり答えを求めたりする気持ちは理解できるが、授業でも伝えたように「与えられた知識ではなく、自ら獲得していく学び」を得られる姿勢を求めている。同時並行する他の科目（看護技術各論Ⅱ、看護技術各論演習Ⅱ、看護技術各論演習Ⅲ）と組み合わせた時間割としており、やや煩雑になる可能性が考えられるため、科目間のつながりを見出した学習ができるようにサポートしていく。次年度も科目に関する説明時期や内容・頻度、方法等を検討して改善していく。
2141	看護技術各論演習Ⅱ	・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。 ・よかった点として、演習中の教員の指導、事後課題へのフィードバックコメントについての意見がありました。一方で改善した方が良い点として、フィードバックコメントがもう少し早いとよかったという意見がありましたので、適切な時期にフィードバックコメントを返していくように努力したいと思います。
2142	看護技術各論演習Ⅲ	本科目の授業評価は、対応する科目「看護技術各論Ⅲ」と同様に回答するすべての項目において全授業平均より上回った結果であり、全体を通して良好な評価だったと考える。「課題が多い」というコメントもあったが、今年度は単元ごとに課題を設定しており、「看護技術各論演習Ⅱ」とも並行して演習をしていたため、少しタイトなスケジュールな中での取り組みとなってしまった可能性がある。課題へのフィードバックの返却時期が遅くなってしまった要因の一つであるとも考える。一方で、授業初回到科目運営に関するオリエンテーションを実施しているため、学生の皆さんにはそこで得られた情報に基づき、自己の学習スケジュールを十分に管理する姿勢も身につける必要があると考える。今年度の状況を踏まえて、次年度では学習資料等を見直し、課題設定の時期や量・質、周知方法の検討を行い対応していく。

令和5年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	科目名	授業改善計画
2143	成人看護援助論Ⅰ	2年生前期は、看護専門科目数が増え、しっかり集中して学習を進める時期です。 成人看護援助論Ⅰは、健康レベルが変化する人の特徴を理解し、3年生での成人看護援助論の土台となる科目です。成人期にある人の身体・心理・社会面での理解は、1年次で学んだ科目の内容を看護とつなげて検討することが重要です。さらに、並行して履修している基礎看護学で学んだ内容も活用しながら学習することが必要です。 今年度の履修生は、他の科目とつなげて、積極的に授業に参加して事例について考えることができました。本授業の講義内容を活かしての事例検討では、各自での検討、グループでの検討をしっかりとこなった後に、事例の全体像を関連図で表し方を解説しました。この授業のレスポンスから、健康レベルの変化に影響される多様な反応を持つ人に関心を向ける必要性に気づけたことがわかりました。 2年生前期で押さえるべき知識を提供すると共に、看護の専門性の探究に役立つ、「調べ方・デスカッション方法・思考方法」を養えるように授業方法の工夫をしています。 試験の出題形式について、1人の学生から質問がありました。公平性をふまえて、全学生へ口頭で情報提供した際に、「選択問題と記述問題」と説明しましたが、違うようにとらえた学生もいたようです。口頭説明では、わかりやすく、お話しするように努めます。
2144	老年看護援助論Ⅰ	本授業は、基本的にはみなさんの事前学習と講義内容を基にグループワークを中心に進めていました。目的として、知識を基にした考えを言語化し、共有し、学びを深めるためです。皆さんから頂いた、今後検討が必要と考えられた意見には「グループワークが必要なのか分からないときがあった」「グループで話し合う機会があってよかった」「2回くらいグループ編成を変えて、色々な人と意見交換をしたい」がありました。多様な考えを学びあうことも必要と思います。内容に応じたグループワークの選択及びグループ編成について考えていきたいと思います。
2145	教育学概論	本学での担当3年目となり、教育学のスタート科目として、授業方法や講義内容に定着が見られてきたところであるが、内容と目標を精査していく必要を感じている。次年度は、内容に関しては神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』（2023）を活用するとともに、教職課程コアカリキュラムに基づきながら、到達目標を再検討していく予定である。
2146	教育心理学	最初の教職科目ですが、教職基礎にあたる科目なので、内容的に抽象的なところがいくつかあったと思います。 教職基礎科目として、比較的広い領域を扱う必要があるため、幅広い関心・知識の修得が必要となります。そのため要点を絞って教えるということになじみにくい科目です。あらかじめ、理解しておいて欲しい用語や内容について提示しました。
2147	特別支援教育	開講2年目の特別支援教育であったが、今年度は学生たちの到達度理解と非常勤講師の評価にズレが生じていた。責任教員として総合実習後の学生たちの特別支援教育への理解度、レディネスを把握したうえで担当教員（非常勤講師）との情報共有・連携を進めていきたい。

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3102	ゲーム理論	学内平均より低い項目について、言及したい。「難易・進度の適切性」が学内平均より低かった。ゲーム理論は高校の理系数学の範囲まで必要で、講義内に説明するように努めた。ホワイトボードで学生が実際に解くということをしていたが、時間の関係でその回数が少なくなったので今後は増やしたい。「学生自身の授業到達目標度」も学内平均より低かった。理系数学の解説は行っているが、演習問題を少し経てから経済学へ応用する過程が少なかったので、今後は増やし、目標に達するまで理解できるように教員側からも工夫したい。
3103	地理情報分析	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【よかった点の自由記載】（抜粋） ・レジュメがわかりやすかった 授業を録画してくれたためテスト前の復習につかえた →引き続き学習を深めることをサポートするため、動画は残していくつもりです。 ・実際に手を動かしながらの講義であったため、QGISについての操作を覚えることができた。 →実践をとりいれた講義ですので、そのことを前向きに捉えていただき良かったです。 ・丁寧に教えてくださるのでわかりやすかった。実践形式で理解が遅い人に進度を合わせていたのでとても理解しやすかった。 →引き続き説明の仕方、進度の設定に関して工夫をしていこうと思います。 【改善したほうがよい点】 ・特になし。 【その他、意見、感想、要望など】 ・対面とオンデマンドの混合だったが、とても分かりやすく楽しく作業できました。 →演習部分はオンデマンドのほうが見やすいとの評価をよく受けます。ひきつづき両者をうまく組み合わせたいと思います。
3104	多変量解析	・数学的な内容の理解に苦しんでいると思われることから、より理解を深めてもらうため、演習問題の内容の見直しやフィードバックの方法を工夫してみたい。
3105	キャリア開発Ⅱ	「ワークに取り組むための時間が短すぎる」「授業に課されるワークの量が多すぎた」「スピードが早すぎる」という指摘があったということは、例年よりもワーク数・量とも減らしても、まだ負担感が大きいと感じられていることの表れと思われる。到達目標を目指す上ではなかなか難しいことだが、ワークのテーマを更に絞り込むことや、設問のポイントを絞り込むことでそういった声に対応したいと考える。また、ワークは講義中に完成しなくてもよく、未完成部分は講義後に完成させることが講義の復習であると伝えていたが、その考え方が理解されていない面もあると思われる。ワークの完成により、講義の理解度や習熟度が深まるというメリットがあり、その点は改めて説明したい。次に「インターンシップへの参加を推奨する割に、インターンシップへの参加による欠席が認められない」という不満については、高貝個人の判断ではなく大学としてのスタンスをどうするかというテーマでもあるため、高橋教授をはじめとした関係者にあらためて相談し検討していきたいと考える。 全体的には、昨年度よりもアンケート内容は改善傾向にあると思われるが、まだ分かりづらいという声もあるので、より分かりやすく理解されやすい説明となるよう、改善を続けていく所存である。
3106	構造と機能	旧カリキュラムにおける必修科目としての「構造と機能」は今期で一旦終了するが、次年度においては新カリキュラムの学生に対して、レポート課題の提出や受講の方法について、あらたな手法を取り入れて展開していきたいと考えている。テキストベースのレポートをデータでの投稿形式で提出させようとする、そのレポートの内容が生成系AIによるものが用意される可能性がたかいと思われ、その真偽を確認して授業に活用しようとすれば膨大な人的な労力が必要となる可能性もたかい。また通学を前提とし、大教室に集まってその場で出席確認をする従前からの科目の運営は、昨今のDX活用事情を考慮すると、受講生の就学の効率化をはかるうえで課題が多い。他方、非常勤講師を招いての講義のセクションにおいては、遠隔を活用することも十分に魅力的ではあるが、さまざまな業績を有する専門家に直接対面して議論を行うことのできる環境というものは、大学での学びの中でも特筆すべき魅力の一つでもあることから、こうした特徴を活かし、科目の学びの充実を促すためにも対面での講義と議論の充実を進めていくためには工夫が必要であろうと考えている。その一つとして、時間割の中での講義ではなく、夕方から場所をあらためて実施するような対応も含め、予定の非常勤講師の先生方と調整をしつつ準備を進めていきたい。
3107	ビジネスプロセスマネジメント	「企業の戦略面だけでなくリーダーシップ的な要素についても学べた」などといった肯定的なコメントが多かったので、基本的には現在の講義内容・方法を踏襲する。今後、さらに内容をブラッシュアップさせていく。

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3108	販売促進	・卒業生のゲスト複数名で行ったディスカッションが良かったとのコメントもあったため、これまでと異なった形式での講義もチャレンジしたい
3109	現代企業論	・授業評価アンケートの回答平均値は、「授業外の学習時間」のみ、本授業平均値が全学平均値を下回った。事前・事後課題を課すなど、今後の改善を図りたい。 ・自由記述では、「丁寧に作られたレジュメにより理解しやすかった」など、教材に難する肯定的意見が見受けられた。引き続き、ブラッシュアップを図りたい。
3110	ブランディング	・来年はワークなどにも取り組み、少人数を生かした講義を展開したい
3111	リスクマネジメント	授業アンケートの「授業の要点・内容の整理」の平均値が28.393、「授業マナー遵守への配慮」の平均値が29.607と、全授業の平均値を上回っているものの、他の設問項目は全授業の平均値に比べて低い結果であった。特に「授業計画のわかりやすさ」の平均値が24.393と低かった。これを改善するため、第1回目授業において授業計画を丁寧に説明し、授業計画のわかりやすさを高める。 また、同アンケートの「授業外の学習時間」の平均値が0.457hrと、全体平均（1.356hr）を下回っていた。これを改善するため、事例調査などの復習課題を課すことを検討する。
3112	会計学	授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、引き続き、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようしていきたいと考えます。
3113	経営財務	受講学生からのコメントを踏まえて、引き続き有益な学びを提供できるように、非常勤講師の先生とは連絡をしっかりと取り、科目運営に励んでいきたいと考えております。
3114	人的資源管理論	本年度以降も講義内容、授業運営、評価方法の基本的な変更は予定していない。最新の理論、研究、事象、事例、教育メソッドを導入することで、大学生に対して本来求められる「知的好奇心」を喚起し、修学意欲（モチベーション）を高水準に持続させ、学生自身が主体的な学習行動を選択することを目的とする、真摯な授業実施と展開を志向する。授業成果の最大化のために、授業の阻害原因（規程を順守しない学生の行動など）について除去を徹底する。授業の第1回以外にも、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」を周知徹底し、「評価方法」「評価基準」を再確認してもらい授業の説明責任を果たす。学問への真摯な取り組みを重視することでの「学習メカニズム」構築と、「キャリア形成」における主体的行動への十分な有効性を担保させることを考慮する授業展開を意図する。本年度についても、「事前に、次の授業内容について熟読して、疑問点を明確にして記述する。」「事後に、主要理論と主要概念を整理するとともに、疑問点が解消されたのかを確認する。」の一定水準を達成したものの、より深い徹底が求められることを意識する。これまで、大学における専門科目であることを成果に認識させ、不見識な受講態度、低いレポートのクオリティ、日本語の表現能力の欠落など、学問に対する逆機能・阻害原因について一貫した対応を実施してきたが、これについては継続実施する。「学問」に対して、「テキストを学ぶ」ではなく「テキストで学ぶ」ことを周知徹底して、事前学習の実行を指示したものの、若干名の学生が全く認識していないことを確認した。次年度以降は、そのような学生に対して、所属研究室の教員にも情報を提供して積極的に協力を仰ぐことで、大学の専門科目としての質的担保を維持していきたい。
3115	税務会計	事業構想学において、会計の目標点は、意思決定会計と考えられる。今後、税務会計から、意思決定会計に科目が変更されることは歓迎している。その一方で、ビジネスコンプライアンスとして、脱税は5本の指に入ると称されるほど、問題事案が多い。そのため、今後は、税務会計は税法として、ビジネスコンプライアンスのワンパートとして扱う予定である。
3116	C S R ・ 経営倫理	CSRは、百年を超える歴史があるが、出ては消えの繰り返しで、ブームで終わることが多かった。しかし、現在の第3次C S Rブームは、SDG s等の社会的な関心も高まり、定番化すると期待されている。これまでの一部の知識層だけが理解するものでなく、一般の社会人にも求められる素養として捉え直し、今後はC S R ・ C S Vとして、より事業構想により沿った内容にする予定である。急速に発展しているC S Rに対し、新しく注目される分野について、新規に3名の講師招聘して、対応する予定である。
3117	社会的共通資本	講義では、グループワークなどを取り入れながら、社会的共通資本の課題や新しいアイデアについて発想していくための作業について実施してきた。学生との対話や発表をさらに充実させて、内容および理解を深められるように、さらなる工夫を行っていきたい。
3118	計量経済学	事前・事後を含めて、学修した内容を適用することに重きを置き、分析手法を使えることを目指した。アンケート結果でも「今まで扱ってきた分析手法を実際に活用できる機会を得ることができた点」という回答を得ることができた。また、その結果、事前・事後の学修時間が4時間程度であったという回答結果であったことから、十分な時間の学修時間を確保できたと言える。理論の説明などをさらに含めることで内容の充実を図ることを目指したい。

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3119	地域産業政策	本講義は、宮城県内の産業政策分野の第一線でご活躍中の非常勤講師4名にご出講頂いており、そのことが地域産業政策の理解を大きく促進していることが、アンケートからも確認された。次年度もこの講義スタイルを継続するとともに、課題への取組み方に個人差が生じないように配慮したい。
3120	地域環境政策	本講義科目は、社会に出る前の4年生を対象としたものであれ、実際の現場での様々な地域環境政策の事例を様々な学べるように構成している。宮城県の身近な自治体の事例や、国の広い視点からの話題等を学べるものであるが、前半期は就職活動と重なり、面接対応等で講義に来られない学生が多数散見された。授業の動画記録により事後の学修にも応えられるような工夫について検討していきたい。
3121	地域福祉政策	授業評価から鑑みても、地域福祉政策の授業内容について一定以上のご理解をいただけたと思います。これに甘んずることなく、社会のニーズに応じて内容をアップデートして、実践で用いることができる知識を提供していきたいと思います。
3122	社会起業論	本科目は、これまで4年次開講であったが、次年度より、3年次配当となる。関連科目の学習内容も踏まえて、次年度にむけての適切な改善を図りたい。本科目では、社会起業における事業モデルの構築に向けて、東日本大震災の復興過程において誕生した地元の社会起業家に焦点をあて外部人材による事例紹介を盛り込んできた。その点は継続しながらも、国内外における社会起業のトレンドを踏まえ、最新の事例を盛り込み、東北地方に有効かつ最先端の事業モデルの構築が可能になるような講義計画を実施していきたい。
3123	民法	・受講生からは、「事例があり、とても理解しやすかった」、「民法は範囲が大きいですが、その中でも重要な項目に絞って講義をしてくれていた」等の感想があった。引き続き、受講者にわかりやすい授業を心掛けたい。
3124	公法	【良かった点についての自由記載】（抜粋） 先生が難しいこともかみ砕いて教えてくれて分かりやすかった。 毎講義、事例を含めて講義をしていただけるので理解しやすかった。 ⇒行政法をはじめとする公法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。
3132	水資源利用学	【この授業に関して、良かった点】 ○他の方々の意見を毎回聞くことができるのは興味深かった。 【改善したほうがよい点】 ○課題がほかの科目に比べて多かった。 →反転学習の成果が現れていると考える。講義時間の制約上、章ごとの事後解説はオンデマンド配信を行い対応した。こういった点も事後学習時間の負荷に繋がった可能性がある。 反転学修は、学びに関する学生の自主性を高める上では効果が大きいと考えられ、科目によっては積極的に導入すべきと考える。一方で、授業の進行により臨機応変に対応する必要もある。学生、教員ともに興味を持ち楽しんで取り組むことがポイントと考える。
3133	災害の科学（水）	【学生からのコメント等】 学生からのコメントはなかったが、今後とも、学生の理解を深化させることに努めていきたい。事前・事後学習時間が不足していることについては、課題を増やすことを検討したい。マナー配慮、授業計画のわかりやすさについての評価が低かった点については、今後改善していきたい。講義資料については、継続してブラッシュアップに努めていきたい。
3127	地区・街区計画	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じましたが、このことに高い評価をいただきました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3130	建築計画	アンケート反応値が全授業の平均値に対して総じて低調であったので、特に学生が学修成果を実感できるよう、授業にインタラクティブ性を採り入れるよう改善する。
3131	生活環境工学	授業評価アンケート結果を見ると、全9項目において全授業の平均値よりも低い値であった。非常勤であるため、授業時間以外は学生と接触する機会はないが、今後はより一層丁寧に対応することを心掛けたい。 アンケートの「自由記述」において期末試験に関する改善を求める声が多かった。過去問題の配布については、時機を見て実施したい。
3134	耐震設計法	一級建築士の受験要件を満たす上で、実質的には必修相当の科目であり、多くの皆さんに受講していただきました。「写真の事例が身近なものだったので興味が湧きやすかった」「毎回の振り返りで授業の要点を理解できた」など、講義には非常に高い評価をいただきました。一方で、成績としては秀でた学生が少なかったことから、小テストの実施方法などを見直すことを通じて、知識の定着につながる授業となるよう改善します。

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3135	ファシリティマネジメント	アンケート反応値が全授業の平均値に対して総じて低調であったので、特に学生が学修成果を実感できるよう、授業にインタラクティブ性を採り入れるよう改善する。
3136	サスティナブルデザイン	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じましたが、このことに高い評価をいただきました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3137	測量	（良かった点） 毎中間レポートがほかの科目ことは異なり、計算を多用していて面白かった。 データを表で表す作業の際、丁寧に教えてくださったので非常に助かった。また、中間レポートを採点し、間違い直しをする機会があったことが良かった。 （悪かった点） 実験の際に先生が一人で行っていて、大変そうでした。 上記のコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明，講義資料の改善をしていきたい。また野外における環境計測などは学生が機器に触れる機会を増やすための工夫をしたい。
3138	インタフェースデザイン	授業の構成は継続しつつ，より質の高い内容へとアップデートしていく，授業外での学修時間が少ない結果であったため，課題内容の修正等を検討する．
3139	コンピュータグラフィクス	・昨年度までに作成したオンライン授業コンテンツと教科書教材の併用することにより，試験成績や授業評価における学生の理解度に関する項目において良好な値が得られている，今年度は優れた成績を修める学生の比率が高く，CGに関する学習意欲の高い学生が多い傾向がみられた，今後も理解度と難易度の適切なバランスの確保を進めていく． ・課題については，今年度は量に関する学生意見はなかったものの，課題の難易度が高いとの意見もあり，引き続き調整を進めていきたい． ・授業評価の自由意見では，「いろいろなことが少しずつ知れて面白かった」「講義の内容が分かりやすくまとめられていた」等の肯定的な意見が複数みられた，今後も最新の情報を取り入れながら，学生の興味を喚起できるような内容とするように努めたい．
3140	ウェブデザイン	・目標到達への授業計画の見直し 学生同士で事前課題を発表し合う機会を作る、グループ課題の中間チェックの機会を増やすなどして、授業外学習時間を増やす環境を作ることで、到達目標に対する学生の自主性をより育み、学修到達度のより良い達成を目指す。
3141	感性情報デザイン演習Ⅱ	・今年度は履修学生数が前年度に比べて増加したものの，対面での演習指導により効果的な指導ができたと考えている．授業評価の結果においても，多くの項目で20ポイント以上の値を得ており，また自由意見の中でも「制作物作成経験が積めたこと」「講義内容が分かりやすくまとめられていたこと」等の肯定的な意見もみられた． ・演習での課題設定については，「内容を詰め込みすぎていて期末制作の時間が少なかった」「講義時間が長いにもかかわらず講義内容が薄く，多くの時間が各自の制作に振り分けられていた」と相対する意見が示されている．前半と後半の課題の進め方の違いによるものと考えられる． ・今後の新カリキュラムでは，本演習の前半部分は2年前期に，後半部分は3年前期に分離され，内容をさらに充実させる予定となっている．上記の点を踏まえ，より一層の理解度の向上を目指して授業内容の充実化と教育方法の改善に努めていく．
3142	情報サービスデザインI	授業評価に寄せられた改善点として，講義の進行速度が不安定，課題制作に向けてのサポートの不足という声をいただいています。講義の進行については，限られた時間の中でシステムの様々な要素をカバーするため，進行が速いと感じる部分もあると思われますが，重要なポイントに時間を割きつつ，項目を精査してスムーズな進行となるように改善します。また課題制作のサポートについては，開発やデバッグ，環境構築について，個々人の課題解決スキルが向上するように，プログラミング支援ツールの活用法の紹介やサンプルコードの充実化をはかっていきます。
3143	フィジカルコンピューティング	授業の構成は継続しつつ，より質の高い内容へとアップデートしていく，授業外での学修時間が少ない結果であったため，課題内容の修正等を検討する．

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3144	エンタテインメントデザイン	・講義内容に関しては、授業評価結果では多くの項目で30ポイント以上の値が得られ、また自由意見でも「学生同士のグループワーク、身近なことと絡めた内容で好奇心を掻き立てられるような講義であった」「発言のポイント制など、楽しく授業を受けられる工夫がいくつもなされていたのでよかった」などと肯定的な意見が複数得られている。 ・3コマ連続、就活終了済みの学生が多い4年生、進路はゲーム業界とは無関係ということを踏まえて、「ゲームという身近なものを通じて、社会人になった時に必要とされる、“自ら考える力”、“深く考える力”を、グループワーク等で育成する」授業デザインとしており、学生の意欲を喚起する良好なものであったと判断する。 ・次年度講義でも、ゲーミフィケーションを取り入れ、学生が楽しみながら学ぶことができるよう授業内容や方法について工夫していきたい。
3247	デザインマネジメント	リサーチをしてそれを発表するというのが多い授業であり、そのことで直接フィードバックを得たりして、アクティブラーニングとして参加している感じが強く感じれる授業であると思う。より生徒が参加していると感じれる要素を高めていきたい。最終課題のアウトプットをより良いものにするためにスポット演習時間をより多く設けていきたい。
3148	プロジェクトマネジメント	「学生自身の到達度」のほかには、「マナー配慮」が全学の平均よりも20点ほど低い。しかしこれは意味不明である。そもそも授業のマナーを乱すような学生はいなかったからである。有効回答数が5で、全て0点をつけた学生が一人いるようなので、それに引きずられたか。 自由記述に何もなかったのが残念である。来年度は3年生と4年生の混在、その次の年度からは3年生の科目となる。3年のうちにこの科目を受講することにより、4年次の卒業研究がうまく進むようになればよいと思う。
3150	事業構想学概論	・講義で話す内容が多く、学生間での話し合いの時間や手を動かして考える時間などがとれなかったので、次年度はそのような時間をとれるようにしたい。
3151	キャリアデザインI	・上記3の到達目標を掲げて、授業中に学生自身が考える時間や個人ワークを多く盛り込んだ結果、「ワークを通じて自己理解ができた点が良かった」、「キャリアについて考えるよいきっかけになった」、「自己PR分を書く機会が得られたことがよかった」など、到達目標（学習のねらい）が達成できたと思われる自由記述も見受けられた。さらに、ブラッシュアップしていきたい。 ・改善を求める点として、「出席が遅刻に甘すぎる」といった指摘があった。今後は、的確に出席管理を行っていきたい。
3152	データサイエンス	授業評価に寄せられた意見として、学生の理解度に合わせる仕組みになっていて助かった、Excel基本操作について学べた、非常に実践的で楽しく学べたというフィードバックをいただいています。一方で改善点として、もっと多く演習に取り組みたいと思ったという声もありました。講義時間が限られていること、また授業外の学習時間が十分に実施されていないことから、事前・事後学修やレポートにおいて難易度を適切に設定した実践・演習を増やすなど改善を進めていきます。
3153	ビジネスモデル論	授業評価の結果からも、複数回のビジネスモデル作成の課題をこなすことによって(また、そのフィードバックをほぼ全員に返したことによって)理解は深まったかと思います。今後も社会のニーズに応じて内容をアップデートして、実践で用いることができる知識を提供していきたいと思います。
3154	ミクロ経済学	学内平均より低い項目について、言及したい。「知識や技術、理論の習得に役立ったり、知的関心が喚起」が学内平均より低かった。ミクロ経済学はある程度抽象的な計算モデルで学習しているが、それが現実の経済を見るときにどのように応用できるのかをきちんと伝え、知的関心が喚起されるように工夫したい。「学生自身の授業到達目標度」も学内平均より低かった。講義内で学生が発言する機会をとっているが、誤解しているケースなどをピックアップし、目標に達するまで理解できるように教員側からも工夫したい。
3155	ビジネスコミュニケーション	新規に立ち上げた科目であり必修でもあったことから、内容を詰めすぎないように、前回の振り返りも行うなど慎重に行った。提出されたレポートや授業評価アンケートを見る限り、到達目標は十分達成できていると考えるが、一方、物足りなさを感じる学生もいたようである。次年度より内容の充実と、中間/最終レポート以外の事後課題の設定を行う予定である。
3156	法学概論	自己学修の時間と成績の格差が激しいようである。学修と理解の底上げをはかるため、教材等の工夫を検討したい。
3157	経営学概論	・授業評価アンケートの結果では、「授業マナー遵守への配慮」については全学平均値を下回る水準であった。今後は、遅刻や授業態度への注意喚起をしっかりと行っていきたい。

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3158	地域学	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・さまざまな専門を有した教員による講義を受けることことができて貴重であった、楽しかった、先生一人一人が自身の研究分野について講義することによって、今後どのような学びをしていくのかイメージすることができたとのコメントを得ています。地域に関してさまざまな観点からあらゆる対象に向けた政策を身につけることは、本科目の到達目標でありその達成に向けた講義がなされていると考えています。引き続き、地域学、地域創生とは何かを紐解くための講義内容を目指し、わかりやすくかつ有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・本科目は、2年生を対象とした前期必修科目でありこれまでの基盤科目中心の科目から専門分野の移行する転換点に位置する科目となります。地域を見るためのさまざまな目を養い、かつ学生自身の興味やゼミ配属先の検討にも繋がる科目であることから、上記に記載されている今後の学びに対するイメージを持つことができたといったコメントは、到達目標上、非常に効果的であったと思われます。今後各教員が講義内容のさらなる充実をはかることで、より一層本学類の3本柱である「地域アントレプレナー系」「地域政策・公共系」「地域環境・計画系」に対する理解を深めるための講義を実施できるよう尽力していきたいと考えています。
3159	地域実践演習a	本演習では、学外実習を含むグループによるPBL学習スタイルで実施した。学外実習で使用する公用バスに乗車定員があるために、実習先を2か所に分けて実施せざるを得ず、出席や課題の提出状況を踏まえて、グループ編成を行った。バスグループは石巻市内、バスを利用しないグループは仙台駅前と別れたために、交通費の負担などで差異が生じた。シラバスにはその可能性があることを表記し、授業始めのオリエンテーションで説明したものの、理解が十分ではないことがアンケートから読み取れたため、履修登録前に説明を徹底したい。
3160	情報と環境	・新カリキュラムとなり、1年次の情報関連教育が強化されたことを受け、学生の理解度を把握しながら授業内容の難易度の調整を行った。結果として、成績や授業評価等の結果には大きな変化はみられず、概ね適切に調整がなされたものと考えている。引き続き、学生が楽しく学べることを重視してコンテンツ及び課題の改善を進めていきたい。 ・期末試験成績に基づく学修理解度も概ね良好な値であるとともに、成績分布も優を中心とした分布を持続できており、学生の理解度は良好な状況にある。今後も授業の難易度調整を継続し、それに応じた内容の更新を進める。 ・授業評価の自由意見では、授業内容に関して「様々な例を取り上げていて面白かった」「課題が多く、実践的であった」などの肯定的な意見が複数みられた。一方、「資料が多すぎるように感じた」などの意見もみられ、引き続き内容・資料について調整を進めていく。
3161	色彩と形態	授業評価より、実践的な内容、事例の紹介、デザインそのものを考えるための内容は良かった点として多く挙げられていたため、次年度以降も情報の整理とコンテンツの拡充を図っていく。また、授業資料が多いとの指摘に関しては、情報量を落とさず内容をまとめるよう改善する。
3165	都市と文化	非常に多くの履修者から、配布資料について高評価を得ました。「毎回の課題で知識の定着だけでなく、問題に対して自分の頭で解決策を考えることができた」「先生の知識から資料にないことも多く知ることができた」などの評価も得ており、引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3166	ビジネスプロセスマネジメント	「現在の企業の動きなども共有されていた点」など良かった点としてあげられており、基本的には現在の講義内容・方法を踏襲する。今後、さらに内容をブラッシュアップさせていく。
3167	簿記会計	開学以来、簿記検定のサポートがなされてきたが、受験者全員合格したのは、本年度がはじめてである。この体制を維持しつつ、合格者が増加したので、その先を学びたい学生のサポートを検討したい。
3168	管理会計	授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、引き続き、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようしていきたいと考えます。
3169	行政学	スライドの進行で、資料の穴埋めに十分メモをとる時間がとれなかったとの指摘について、ゆっくり、丁寧な説明を心がけていきたいと考えている。
3170	国土・地域計画	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 講義の最初に、前回の講義内容の復習を目的として、確認のための作業時間（小テスト）を設けました。この作業により前回と当日の講義のつながりを再確認するとともに、より深い理解と学びを目指したものです。アンケート結果からも、この講義方式に関して勉強に取り組みやすく、知識の定着につながったとのコメントを得ています。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるよう工夫していきたいと考えていきます。

令和5年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	科目名	授業改善計画
3172	地域企業論	本講義は、今年度から開始した新設科目で、地域企業の基礎理論を踏まえて、ケースメソッドで東北の地域企業の経営について理解を深めることを目的にしていたが、学生アンケートの難易度では25.9（全学平均27.4）という評価となった。当初掲げた学習到達目標の達成には、その基盤となる経営学の基礎知識が全体的に不足しており、授業ではフォローアップにかなりの時間を要した。今年度の反省を踏まえて、企業や経営に関する基礎知識を副読本や課題でフォローしながら、授業ではより応用的展開が図られるよう、授業の構成を工夫したい。
3174	評価論（行政評価）	2050年カーボンニュートラルに向けて、環境省はもとより全国の自治体において、再生可能エネルギーの導入促進に係る取組が進められている一方で、地域住民との軋轢が生じるなど様々な問題も生じている。今後、さらに進められるであろう風力発電事業の導入にあたって、どのようなメリット・デメリットがあるかを学び、どのような手続きを経て環境影響評価が行われているかについて、制度的・技術的な観点から授業を行った。 来年度以降も引き続き、制度的・技術的観点から環境影響評価の仕組みを学ぶ機会を提供するとともに、「現場を知る」コツを学ぶために現地での演習も行っていく予定である。
3175	災害の科学（土）	（良かった点） 毎中間レポートがほかの科目ことは異なり、計算を多用していて面白かった。 データを表で表す作業の際、丁寧に教えてくださったので非常に助かった。また、中間レポートを採点し、間違い直しをする機会があったことが良かった。 実際に使われる器具に触れたのが良かった。 座学での専門的な知識の習得に加え、観測データの収集など実践的な学びや東北大の先生の講義があり、中身の濃いおもしろい授業だった。 （悪かった点） 実験の際に先生が一人で行っていて、大変そうでした。 グラウンドの状態が悪いのに現地調査のようなものを行わなければならなかった。 上記のコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明，講義資料の改善をしていきたい。また野外における環境計測などは天候などを配慮したい。
3176	防災計画	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【自由記載：良かった点】（抜粋） ・座学中心ではなくグループワークを多くすることで、能動的に取り組むことができるように配慮されていた点。 ・ディスカッションが多くて良かった。 ・グループワークでの学生との議論で学びを深められた点。 →災害の発生条件によって異なる状況が想定される災害対応について理解を深めるため、グループディスカッションやケースを用いた講義設計とした。次年度もそのような機会を多く設ける。
3177	国際協力論	【この授業に関して、良かった点】 ○様々な講師の方が実践の中でのお話をしてくださり面白かった点。 ○普通の授業では経験できないことを学べるのととても楽しみな授業のひとつでした。 ○様々な講師の話を聞いた。 【改善したほうがよい点】 ○毎回課題があるにも関わらず、レポートの量が多い。 ○前半後半の課題があるにもかかわらず、期末レポートが重すぎた。前半後半の課題はパワポだけでよかったと思う。 ○大きなレポートが講義を通していくつあるか最初に提示してほしい。 →来年度も引き続き外部講師のオムニバスの授業形態を継続する。課題については、事前・事後学習時間からは決して多いとは思えないが、教科書の設定による事前学習を取り入れるなどの検討を行いたい。 本科目はJICA連携グローバルプログラムのコア科目の一つであり、シラバスでもそれを強調しているが、グローバルプログラムをとらない学生も履修できるようなシラバス記載内容の変更を検討したい。
3181	感性情報デザイン演習Ⅰ	・新カリキュラムにおけるコース全体の授業構成を考慮して授業や課題の内容を適切に調整する
3182	メディアプログラミング	授業評価より、丁寧さやわかりやすさはある程度達成できたと考える。一方、実際に将来どのように使うのかわからないという回答に関しては、より今後の授業との関連や応用について例や実例を挙げるなどして解説の充実を心がける。

令和5年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4103	フードコミュニケーション	「授業マナー順守への配慮」の評価が低くなっているのは、実態として授業への出席学生数が少なくなったことを出欠管理の甘さと不満を抱いた学生がいたことが大きいと認識している。本講義は、4年生前期学群全体必修講義であるため、就職活動にも安心して取り組めるように、「就活」で授業に出られない場合は比較的簡易な課題提出で出席扱いとする柔軟な対応を行った。宮城県外出身者や就職先の種類など就活上の様々な事情に配慮することは不可欠であり、受講学生にはこの出欠管理の意義に関するより丁寧な説明に努めたい。
4104	生物生産環境学	※来年度以降は生産環境情報学に変更 ・講義のスタイル 今年度までと同様に、対面/オンラインどちらでも対応できるようteamsやその他のサービスを活用する。 ・講義内容の周知 当講義は、基礎から応用（具体例・先進事例）が含まれるため、ガイダンス時（第一回）に授業構成とそれぞれの関連性について明確に示す。 ・講義内容 最新の生産環境事例を紹介するため、ゲストスピーカーを新たに増やす。また、AIを使った応用事例も生成AIの活用などを加え、最新の情報も適宜追加・修正する。また積極的な生成AI活用を目指す予定である。 ・事前事後学習に関して グループワークに関して、グループ間・グループ内での負荷に偏りがあったと考えられるため、個人レベルでの負荷がバランスするよう工夫する。
4105	植物病理学	本科目は旧カリキュラム科目であり、その後継科目は今年度から2年次後期の「植物保護学」として開講している。これまでの植物の病害だけでなく虫害も併せて学修し、農作物を病害虫から守るという、より応用的な学修内容になる。したがって、植物病原微生物学の分類から害虫である昆虫の生理生態、病害虫防除の行政的な内容まで学修内容は多岐にわたり、覚えるべき専門用語も多い。そのため、指定した教科書に加えて、要点をわかりやすくまとめた資料を併用して解説する。また毎回の確認テストを実施し、随時理解度を確認する。さらに同年次開講科目である植物生産実験実習Ⅰおよび植物生産実験実習Ⅱの実施内容と関連づけ、病害虫防除への理解を深める。
4106	植物遺伝育種学	ご意見ありがとうございます。以下に自由記述された点を記載します。 【良かった点】（抜粋） -先生の育種学オタクっぷりが出ていてとても楽しい講義だった。楽しく話している先生を見ていて楽しくなった。 -日渡先生の説明が分かりやすかった -ポイントがまとまっていてわかりやすかった。 *改善した方が良い点、その他に関しては、意見がありませんでした。 教科書が改訂されて内容が大幅に変わりました。大規模DNA解析（ゲノム解析、トランスクリプトーム解析など）の最新の内容を含んでいるため、理解するのに時間がかかったり、難しかったりしたかもしれません。研究の進展が早いことがこの分野の特徴ですので、最新の内容も含めて基本的内容から丁寧に説明したいと思います。
4107	植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	①テキストに絞ってあり勉強しやすかった、②毎回講義を始める前に生産者の事例に触れている点が良かった、③資料を活用していて良かった、④授業聞いていないと質問されたときに困る雰囲気があり学習意欲が湧いた、⑤授業のテンポが良かった、といったように評価していただいた反面、⑥テキストのみで眠くなった、というご意見もあった。今回、全体として評価が高くなかった大きな理由は⑥に反映されているように感じられた。より事例の紹介に力点を置き、皆で考える形式を多くするとともに、授業の運営について適宜アンケートを実施し、軌道修正を行う機会を設けたい。
4108	植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	本講義は教科書を使用し、教科書の内容を理解する助けとなるような講義を行っています。そのため、あえてプリントなどは配らず、自分で気が付いた点をノートにとってもらって、のちのち自分で復習ができるようにしてもらうことから、勉強になるようにお願いしています。ですが、ノートをとる時間があまりなく、ついていけなかったというコメントがありました。講義中なるべく時間をとるように心がけていますが、どうしても人によって理解度や進行具合が異なるため、そのようなこともあるかと思います。その時には、講義後に質問に来るなど、積極的に学生さんからも本講義に関わってほしいと考えています。また、こちらも、今後は補足プリントを用意するなど、改善を図るようにしていきたいと思います。
4109	動物繁殖学	動物繁殖学を難しいと感じた学生も多かったかもしれません。私たちの普段の生活にも関係している部分も多くあるので、興味を持って聞いてください。わからないところは必ず確認テストの中で質問するか、復習しましょう。
4112	動物性食材生産学Ⅱ（肉）	来年からないので、記載しない。
4113	生物生産環境学実験	学生アンケート[目標到達できる内容][学生自身の目標到達度]のスコアは全体と比較して5ポイント低く、難しいと捉えた学生が多かったものと考えている。目標設定についてはすでに検証済みであり、次年度から新カリ科目に移行する。基礎的な別科目での予備知識を得たうえで、本科目に相当する新設科目へ履修する形をとる。先を見据えて、当科目での目標設定は必要な内容であり、そこまでのステップを改善することで、目標到達を後押しする。わかりやすさの部分に関する改善については今年度の状況を踏まえて、次年度以降の内容に反映させていく。

令和5年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4114	植物性食材生産実験実習Ⅰ	本科目は旧カリキュラムであり、以下の点を新カリキュラムに活かしていきたい。 作物分野：栽培実習を行うことにより、講義で学んだ事項をより深く理解できるよう、事前・事後の課題を工夫する。 蔬菜分野：生理生態と栽培管理を関連づけた内容になるように検討したい。 植物病理分野：対応する講義科目と関連づけて病害虫への理解を深められるように、供試材料・内容を設定したい。
4116	植物生産基礎実験Ⅱ	今回の実習では、評価項目の中で授業計画のわかりやすさの回答値が低いことがわかりました。履修生のみなさんに、実験の内容や日程が適切に伝わらなかったためと思います。今後は、各担当教員が実習初回時に実験内容を丁寧に解説する、また日程についても担当教員が代わる際に周知し、履修生が実験の進め方を理解できるよう務めます。
4117	動物生産基礎実験Ⅱ	実験動物の飼育管理については防災センターと情報共有し、教員不在時でも入室できるようにする。 試薬や分析装置などの準備段階から学生が関わり、実習の本質をより理解し易くする。
4118	分子生物学（R3年度以前入学対象）	本科目については自主学習が不可欠である。理解が不十分と考えられた場合は、遠慮せず教員に質問に来てもらいたい。授業の振り返りレポートや確認テストにより講義内容の確認を行い、小テスト・定期試験で知識の定着を見ているが、事後学習の不足が散見される。小テスト等はしっかりと復習を行い、知識の定着を図ってほしい。 板書は分かりやすく丁寧に記載し、理解が深まる様に心がける（須田）。
4119	栄養科学	栄養科学は身近な食生活や健康に関わる内容であることから、毎回の「振り返り」で興味深い質問・意見が多く、それらに対する回答・コメントを次の講義資料に掲載し、一部は口頭でも解説することで充実した内容となり、履修学生からも好評であった。本科目は学修内容が多いため、要点は授業中に強調して解説し、最終回に重要ポイントをまとめたことで効率よく復習しやすくなり、「授業に関して良かった点」として挙げられた。また、スライド・資料の情報量も多くなりがちなので、より分かりやすくするよう常に改善を心がけているが、今後さらに理解しやすくなるよう工夫したい。
4120	企業倫理	就活と重なる時期だからこそ、講義で話す内容と実際に就活で直面する状況を総合的に考える機会になる科目です。卒業前に大学で考え方の幅を広げておくことにより、企業研究を行う際の視点や、実際の面接など、さらに就職「後」の各種の打合せなどにおいて、ビジネスとはいえ譲ってはいけない倫理的な視点を習得する機会を習得する機会になると考えています。授業では古い話から最新の話まで、様々な事例を用いて基本的な企業倫理の視点を紹介していく予定です。「切り口」を習得できれば、その日から判断が可能になりますが、知らないままではもやもやしたままで時間が経過しますので、4年生の就活時期だからこそ、考え方を整理する機会として取り組んで頂ければと思います。
4122	水資源利用学（食産）	【この授業に関して、良かった点】 ○レポートを書いてきて発表という流れが、大学の講義という感じがしてよかった。質疑応答なども今後の卒論に向けてのいい準備になったと感じた。あと、先生の知識量がすごい。 ○自分で調べたレポートを発表して、それに対して学生たちが意見を述べる授業スタイルがとても良かった。 →反転学習の成果が現れていると考える。講義時間の制約上、章ごとの事後解説はオンデマンド配信を行い対応した。こういった点も事後学習時間の負担に繋がった可能性がある。 反転学修は、学びに関する学生の自主性を高める上では効果が大きいと考えられ、科目によっては積極的に導入すべきと考える。一方で、授業の進行により臨機応変に対応する必要もあり、教員の負担も大きいのが課題である。
4123	動物発生工学	授業外学習時間が少ないことは、復習がおろそかになっている可能性があります。授業の中で分からなかったところを、しっかり復習するよう心がけて下さい。
4124	水棲動物学（R3年度以前入学対象）	本講義は水産専門科目の最初の講義であり、基礎的な知識を中心に行っており、授業で取り扱う範囲も多く時間配分をもう少し改善していくとともに、公務員への志願者も近年多くなっているため、幅広く公務員試験対策にも繋がるような授業へ工夫していきたい。アンケート結果からも履修者が少人数でありながらも評価が大きく分かれており、理解できている学生と出来ていない学生の差が激しいことがわかった。授業外の学習時間が大変少ないため、定期的な小テストを実施するなどし、時間外学習を促すように対策を行っていきたい。
4125	水棲植物学（R3年度以前入学対象）	今回の講義は、5人の受講生のうち3人が研究室配属（卒研サーベイでの配属）となったことから、大きな問題はなく、水産分野あるいは海藻の基礎生物学に興味を持ってもらえたと思われる。そのため、基本的には現状を維持していきたい。ただ、旧カリでの講義は今回で終わり、後期から新カリでの講義となり、3年生から2年生に対象が変わるので、今後は専門基礎知識のなさを考慮して内容の改変を行う必要がある。また、受講生も45人程度と大幅に増えるので、今までのように極めて近い関係での講義ができなくなるので、どうしたら聞いてもらえる内容になるのかを考えていきたい。
4126	水産資源学（フード）	本授業は水産分野の授業として初めて受講する学生が半数を占める科目である一方で、水産分野に進学したい、より専門分野を学びたい学生も受講しているため、各学生にあった授業内容を行う必要がある。理解度向上に向け事前・事後学習の強化を図り、理解度を高めていきたい。

令和5年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4127	食品流通・情報論	資料を書き込む形式に変更したところ、その日の授業コメントに数名の学生から今回のアンケートにもあるような意見が出たため、記入が終わっているかの確認、書き終わった学生がいても手持ち無沙汰にならないよう関連した内容を話す、授業後に書き込み後のファイルをTeamsに挙げるなどを行った。アンケートの指摘の一方で、個人的には学生の書く動作の衰えもあるのではないかと感じております。そのため、改善した方が良い点にある、「短い単語のみ」にすることや、「書く部分が多い」点については、学生にも努力していただく必要があると考えます。 しかし、「授業のプリントが読みにくかった。書かれている内容が多く、何が重要なかわからない時があった。」といった点については、1回の授業で多くの内容を詰め込んでしまったこともあり、重要な点がわかりづらかったと考えられるため、この点について改善を図っていきます。なお、この科目は今年度で終了となるため、新カリキュラムでの「食品流通論」に改善点を反映していきたいと考えます。 全体的に全授業の平均値を下回っており、中でも特に低い「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「知識や技術の習得、知的関心の喚起」を中心に、改善を図ることができるよう取り組んでいきます。
4128	食品企業経営戦略論	対面授業を基本に実施します。専門課程では教員が提示するスライドだけでなく、あくまでテキストを読んでから授業に望む姿勢を最初から身に着けて参加して頂きたいと思います。毎年、講義の途中で、テキストを読んで参加したら授業がすごくよくわかったというコメントがかなり出てきます。遠隔授業や完全受け身の形ではなく、可能な限り予習をしちてから授業に参加してください。説明はできるだけ平易なものに心がけたいと思います。
4130	フードサービス産業論演習	・履修者が真面目に取り組んでくれたこともあり、概ね計画した通りに進めることができたと感じている。 ・授業評価アンケートをみたところ、問題点の指摘は特段なく、高い評価をもらえた。 ・学生主体の演習スタイルで、講義の部分にもディスカッションを取り入れ、毎回違う学生とペアワークをするなどの取り組みをしたことが評価されていたので継続したい。 ・就職活動のために出席できない学生が出た時に、グループの中での取り組みがうまく行かない場合が発生していた。これについては授業時間内での調整が難しく、欠席者を除いたメンバーでグループワークを行い、その内容を欠席者にシェアした上で、欠席者は授業時間外に自分の分担の作業を行う形をとった。現時点ではこれ以上の方法が見つからずにいるため、次年度も同様の方法ですすすめたいと考える。
4131	フードシステム解析演習	計量経済学、オペレーションリサーチ、多変量解析等は、難しく感じるかもしれませんが、実際にデータを手にとって、いろいろと分析してみると楽しいものです。理論と実践をいったり来たりしながら、フードシステムに関わることに興味を広げてほしいと思います。分析手法の理論に加えて、実社会でどのようにデータが使われているか分かるように演習の中身を改善していきたいと思います。
4132	食品衛生学実験	本実験の内容に関しては、今年度参加した学生の積極的な参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。実験の組み立てとしては、食品製造の現場で実施されている内容をコンパクトにまとめたものとなっており、この内容を十分に理解した上で、実験の望んだのであれば、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の受講者で事後のレポート作成の際に、十分に実験内容や実験結果を把握しないまま、レポート提出したようであった。本来であれば、分からない部分は自己学習または、教員への質問などでフォローすべきなのだが、この部分がかけていたようであった。次年度はこれらの部分も含めてしっかりフォローしたい。
4133	食品貯蔵・流通技術論（R3年度以前入学者対象）	到達目標やシラバスは概ね問題ないと考えている。 目標到達のため、定着のための学習時間を増やす必要があると考えている。事前、事後の学習、準備が必要となる講義の実施（開始時の問いかけや討論）、事後の定着の時間を設けたい。
4134	ローカルフードシステム論	県庁の方の話が重複があるとのことですが、事前に打ち合わせ等するようにします。 レポートの内容が抽象的とのことですが、内容について見直しを行いたいと思います。
4136	食品物理化学	図や文字を強調することで、わかりやすい講義資料とする。実学に相当する分野をトピックで紹介し、学びの動機づけを促す。
4138	食材生産・加工実習Ⅰ	学生のほとんどが食材生産・加工の体験が初めてであるため、興味、関心を持って取り組めたようである。実習の事前連絡やレポート評価基準の明確化についての要望があり、今後、対応する。 生産分野：実習の内容や配布資料、レポート課題を見直し、圃場での野菜栽培や家畜の飼養管理等、食材生産の意義や管理の重要性を理解し、生産に関わる知識を身につけられるよう工夫する。 加工分野：加工の意義やレポートの書式に関しては、説明は行っているものの十分に伝わっていないところがあるので、以降は記載すべき内容について明示するようにしたい。
4141	分析基礎実験	到達目標やシラバスは概ね問題ないと考えている。実験内容によっては2コマの枠を超過することがあった。やむを得ないところもあると思うが、今後とも改善したい。

令和5年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4143	食産業学基礎演習（生物生産）	みなさんのご意見を読むと、研究室ごとの演習が高評価であったことがわかりました。今後も研究室での少人数の演習を継続します。この研究室での演習では、演習先研究室の選択する際に、希望の研究室を選ぶことが出来なかった方がいたようです。第1期、第2期のどちらかには希望する研究室が選べるように、来期では研究室選択の方法を見直す予定です。
4146	植物生理学	植物生理学の講義では定期的に小テストを実施し、学生の学修促進、知識の定着に努めている。学生も趣旨を理解して、概ねよく勉強している。ただ、一部の学生は、あまり事前事後学修を行っていないような成績となっている。次年度は、授業の概要をまとめる振り返りレポートなどの事後学修に力をいれ、もう少し成績の底上げを図りたい。
4148	食用作物学	事前・事後学習に活用できる資料を講義の際に配布しているが、それを用いた自主学習が十分でなかったと考える受講者が見受けられた。そのことが、事前・事後学習時間の不十分さや成績の低い評価につながっていると考えられる。配布している資料を活用した事前・事後学習の取り組み方について、講義の際に指導をするよう講義中の説明を工夫する。 本科目は、各食用作物について講義ごとに各論を学ぶ。今期のアンケート結果より講義内容の難易度および進行速度は適切であったと考えられる。より一層、学習者の理解を高めるため、来年度は各作物の実物について触れたりする機会を設ける。今年度は新旧カリキュラムが重なったため履修登録者数が多かったが、来年度は今期より少ない数になると想定されるので、その分個々の履修者が実物を体感できる時間をつくるよう工夫する。
4149	植物生産実験実習Ⅰ	作物分野：栽培実習を行うことにより、講義で学んだ事項をより深く理解できるよう、事前・事後の課題を工夫する。 蔬菜分野：生理生態と栽培管理を関連づけた内容になるように検討したい。 土壌分野：作物の生育と肥料成分との関連を深められるような実習内容を検討する。 植物病理分野：実施内容に対応する講義科目は後期の開講であるため、実習内容の理解に必要な病害虫診断の講義も併せて行う。
4151	生産環境保全学	本科目は今年度から始まった。内容的にも農業施設の構造など物理学（力学）の知識を必要とする部分もあり、受講学生の中には、難しいと感じた者も見られた。このため、その部分については時間をかけて丁寧な説明を実施したい。
4152	農業経済学	私語をする人などについては、対応したいと思います。
4153	発生遺伝学	みなさんの回答を見ると、「授業の要点・内容の整理」「難易・進度の適切性」の数値が低いことがわかりました。本科目で学ぶべきポイントを授業初回に丁寧に説明します。また、毎回の授業でも学修する要点を明確にするとともに、履修生の理解の進行度を把握しながら、授業を進めます。この科目は、ヒト（みなさん）を含めた多細胞生物の個体形成の原理を考えます。みなさんの体作りは身近な教材ですので、身体の理解のためにも、みなさんの個体発生や組織形成の具体例を挙げて説明したいと思います。
4154	生物有機化学	アンケートで授業内容に関する要望があった部分については、担当者で検討していく。他科目と内容が重なることについては、講義の進行上必要なことであったり、内容が重なる他科目を履修していない学生がいたりすることもあるため、ある程度はやむを得ない事情もある。 また、初回講義において、本講義の内容について十分に説明するように注意する。この科目は新カリでは選択科目であるため、講義内容を十分に説明することで、内容や難易度を学生が判断した上で履修できるようにする。 成績評価の分布が低かったことから、基本的な部分の説明を丁寧にすること、類似した例や話を何度か繰り返すことなどにより、学生の理解度向上を促すように心がける。
4155	食料経済論	今年度はカリキュラム改正の関係で、旧カリキュラムによる3年生と新カリキュラムによる2年生を合わせて授業を実施しました。授業評価アンケートの回答を見ると、興味を持って授業を受けた人がいた一方で、要点をつかめなかった人もいたようです。テストの解答や成績評価の分布をみると、旧カリキュラムの3年生の理解度はこれまでと同様に標準的な傾向でしたが、2年生は理解の程度にかなりの個人差がみられました。 このことから、3年生に比べると様々な知識がまだ不十分な2年生に対しては、かなり初歩的な事項から説明する必要があるのではないかと考えており、来年度の授業では授業で扱うトピックを一部変更し、また各トピックでの導入の説明にあたる部分をより初歩的な内容を含めるように変更します。
4156	食品企業組織論	年度当初に夏季集中講義であることをアナウンスし、学期途中でもアナウンスしているにもかかわらず、直前になって他の予定を組み込んだため履修ができなくなる学生が何名か出ていました。外部非常勤講師による授業であるため、開催時期はわかり次第連絡しますので、来年度以降も履修希望者は連絡に注意しておいて下さい。現在のところ講義は集中講義（5日間、1日3コマ）の形を想定しています。
4157	食品化学	事前・事後学習の設定、試験（成績評価）の方法など、適切な分量となるよう改善を図る必要がある。
4158	農産食品学	例年行っている、全員プレゼンテーションの実施は継続的に行っていく。また、本年度から担当者の教科書を使用した。その教科書の中身を中心に話したため、講義中に教科書のみの説明とのコメントがいくつか見られた。そのため他の資料なども使用することを考えており、講義の中身もより厳選する必要性があると思われる。

令和5年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	科目名	授業改善計画
4159	食品衛生学	当該科目は、食品の安全性に関わる技術的な事柄について学ぶ内容である。このため、食中毒菌の名称や生育条件など、基本的な事項についてはある程度暗記が必要である。例年、基本的な知識の定着を図るため、ミニテストを実施し、このことが事前・事後の学習を促すことにつなげることを計画していた。本年度についても、事前・事後学習を促し、ミニテストも実行したのであるが、期末試験の点数が例年とは違って奮わないものであった。結果的に予想以上に「不可」の者が多くなってしまった。この点は、改善しなくてはならない。本年度については、カリキュラム変更に伴って、寄生虫に関わる部分が増えられたことも、点数が振るわなかった原因の一つであったと考えられる。いずれにしても、基本的な部分については一定程度暗記する必要があるが、その上で、単位を取得するためには各々の内容をしっかり把握することが重要である。今回、単位取得に至らなかった者についても「再履修」の機を積極的に受け止め、この機を使ってしっかり学習し、必要事項の定着を図ってもらいたい。授業の中でもしっかり伝える。
4160	有機化学	本年度は、結果的に「不可」の割合がやや多めになった。当該科目は暗記だけでは十分に対応できず、内容をしっかり把握することが求められる。このため、自らの考えることが重要である旨、授業の中でもしっかり説明する。本年より、Teamsを使い、事前の資料配布を行っている。このことは、事前学習を促す効果もあったようである。授業の中では、配布した資料を使った演習の時間帯を設けるようにした。この中で、学生間での学び合いの機会を作り、より理解を深めることを測ったものである。いずれにしても、内容把握が求められる科目であるため、個別質問の機会もつくり、丁寧に対応する。結果的に、「再履修」となった者についても、これを積極的に捉え、しっかり学習して、以後の研究・学習の基礎になるように、指導する。
4161	生化学	性善説で、出席確認を取っていたが、「いない人も出席になっている」との指摘もあった。今後は厳密な出席管理をする。また、講義資料のアクセスログがない学生も。練習問題など課題を行わなければ試験は解けない。今回の試験は、すべて講義中、あるいは宿題で課した問題をそのまま出題。「試験が難しい」という指摘があったが、それは日頃の学習を行っていないからであると考えられる。
4162	微生物学	以前は必修科目でしたが、今年度から選択科目となりました。その結果、受講者の層がかなり変化したし、「しっかり学ぼう」という意識をもつ人が大半だったと思われます。40人超のクラスで、できるだけ皆の反応を見ながら進めるようにはしましたが、相互コミュニケーションはまだ不十分とも感じています。微生物には未知のものが多くあり、無限の可能性が秘められています。微生物に興味をもった人は、ぜひ卒業研究で関係の深い研究室を選ぶ等、実際に微生物を扱ってみてほしいと思います。次年度は、生物生産学類の3年次の人たちも加わりますが； ①授業内容の整理・明晰化 ②重要事項の絞り込み ③授業中の受講者－教員間の相互コミュニケーションの向上 を目指します。特に③に関連して、アクティブラーニング的な要素（受講者の発言・発表の機会）を盛り込むように工夫したいと思います。